

保健管理センター業務報告書

(平成28年度版)

筑波大学保健管理センター

目 次

1. 保健管理センター沿革	1
2. 国立大学法人筑波大学保健管理センター細則	3
3. 保健管理センター運営委員会	5
4. 保健管理センターの組織図及び職員	7
5. 対応業務等	9
6. 入学志願者健康診断書審査及び精密健康診断	11
7. 学生健康診断	12
1) 定期健康診断	12
i) 受診状況	12
a) 学群生	12
b) 大学院生	13
c) 研究生	13
ii) 健康診断再検査者	14
2) 学生特殊健康診断	15
i) 電離放射線健康診断：学群生及び大学院生（研究生含む）	15
ii) 有機溶剤健康診断：学群生及び大学院生（研究生含む）	15
3) 特定化学物質健康診断	15
i) 学群生及び大学院生（研究生含む）	15
8. 職員健康診断	16
1) 一般健康診断	16
i) 受診者数及び受診率	16
ii) 項目別有所見者数及び率とその内訳	17
iii) 労働安全衛生規則 13 条第 1 項第 2 号の業務（特定業務）の従事者	18
iv) 胃造影検査	18
2) 特殊健康診断	19
i) 電離放射線健康診断	19
ii) 有機溶剤健康診断	19
iii) 特定化学物質健康診断	19
3) 特定健康診査（メタボリックシンドローム健康診断）	20
4) その他	21
i) 便潜血反応検査	21
ii) 喀痰細胞診検査	21
iii) 眼底検査	21
iv) P S A 検査	21

9. 保健管理センター利用状況	22
1) 健康相談月別利用状況	22
i) 学生内科受診数	22
ii) 学生整形外科受診数	23
iii) 学生外科処置受診数	24
iv) 学生歯科受診数	25
v) 職員・その他	26
2) 学生相談利用状況	27
i) 学生相談内訳	27
ii) 学生相談室利用者の年次推移	29
iii) 総合相談窓口内訳	30
3) 精神衛生相談利用状況	33
i) 精神衛生相談内訳	33
ii) 学生の診断別件数	34
iii) 精神衛生相談利用者の年次推移（延数と実数）	35
iv) 学生こころの状態スクリーニング	36
10. その他	37
1) 予防接種者数	37
i) B型肝炎ワクチン接種	37
ii) インフルエンザワクチン接種	37
2) HBs抗原抗体検査	37
3) 臨床検査実施数	38
4) エックス線写真撮影件数及び枚数	39
5) 処方箋発行数	40
6) 外部診療機関紹介状況	41
7) 健康診断証明書等発行数	42
8) 救護活動	43
9) 救急箱貸出数	44
10) 栄養指導件数	45
11. 学内広報・研修活動	46
1) 広報活動	46
2) 研修活動	47
12. 研究業績	50

1. 保健管理センター沿革

昭和48年10月の筑波大学の開学にあわせて、保健管理センターが設置された。昭和49年4月に専任の職員が発令となり、オリンピック記念青少年総合センターにおいて開かれた新入学生オリエンテーション以降、臨床医学系教員ほか関係各位の協力を得て救護活動を開始した。

昭和49年6月3日に筑波地区での講義開始に合せ、体育合宿所の一部で本格的業務を開始し、昭和50年7月に専用の建物が現在地に竣工し、移転した。

なお、昭和49年9月から、文部省（現文部科学省）共済組合筑波大学支部診療所が当センターに併設され、以後その業務についてもセンター職員が兼務している。

昭和53年3月31日の東京教育大学の閉学、筑波大学への移管に伴い、東京教育大学で健康管理業務を担ってきた健康相談所も閉鎖され、本学東京地区職員の健康管理業務は当センターが行うことになった。

昭和54年10月から、一の矢学生宿舎に夜間医務室を設け、医師が宿泊し夜間の救急に備えた。

開学当初は学生相談の対応とともに内科、精神科、整形外科及び歯科を開設し、昭和50年に眼科（現在は廃止）、また昭和57年には婦人科（同）が開設され、さらに昭和63年には運動選手を主たる対象とするスポーツ・クリニックも始められた。

平成元年に創立15周年を迎え、記念誌「健康への歩み」を発行した。

平成3年7月に、本学が当番大学となり第29回全国大学保健管理研究集会関東甲信越地方部会研究集会を大学会館国際会議室において開催した。

平成3年末に、附属病院の救急部の新設や近隣病院の開設等の医療体制の整備に伴い、一の矢学生宿舎の夜間医務室を廃止した。また、プロジェクトとしてのスポーツ・クリニックが終了し、平成4年度からはスポーツ外来部門を当センターの業務、トレーニング・クリニック部門を体育センターの業務とするスポーツ・クリニックがスタートした。

平成6年には、創立20周年を迎え、記念誌「学生相談室20周年誌」を発行した。

平成9年12月に、センター事務室等の改修工事が行われ、事務部門及び看護部門を一体化し、サービスセンターとしての機能の向上を図った。

平成10年4月から、健康診断実施業務の充実と省力化を図るため外部業者に業務委託を行うとともに、関連業務の効率化を図るための電算化を開始した。

平成11年には、健康診断業務の電算化をさらに推進し、受診者の健康管理や健康診断証明書発行業務等での一層の効率化を図った。また、創立25周年を迎え、記念誌を発行した。

平成14年10月の図書館情報大学との統合に伴い同大学体育・保健センターの保健部門との組織及び業務の統合が行われた。

平成16年4月の国立大学法人化に伴い、当センターも労働安全衛生法に基づく労働安全衛生業務を担当することになり、センター職員も産業医や衛生管理者として専門的業務に対応することになった。

平成19年7月に、本学が当番大学となり第45回全国大学保健管理研究集会関東甲信越地方部会研究集会を大学会館講堂において開催した。

平成20年1月に、学生健康診断証明書の証明書自動発行機からの発行が開始となり、学生の利便性が図られた。

平成23年3月に、学生相談のWEBサイトのリニューアルを行い、モバイルサイトを構築した。

平成24年2月に、学生相談窓口を春日エリアにも開設した。

平成24年3月に、保健管理センターホームページのリニューアルを行った。

平成25年10月1日から、耐震改修工事のため、文部科学省共済組合筑波大学支部診療所を休診とし、当センターのみ11月11日に、クラブハウスに仮移転して診療業務を開始した。なお、文部科学省共済組合筑波大学支部診療所は、耐震改修後の併設が困難なことから、平成26年1月31日に廃止した。

平成26年6月24日に、当センターの耐震改修工事が完了したため、仮移転先のクラブハウスから移転した。

平成27年10月から、本学附属病院主催の「診療の安全に関する研修」（年2回開催）を当センターにてDVD研修として実施することとなった。

平成28年度においては、保健管理センターのあり方検討会を経て、センター改革に関する保健管理センター改革準備委員会が設置され、診療・健康診断業務の一部有償化、診療に関わる業務内容の効率化、健診・救護に関わる業務の効率化、学生相談・メンタルヘルス対策充実に関わる体制・環境の見直し及び管理・運営体制について、具体的な検討を行った。

2. 国立大学法人筑波大学保健管理センター細則

〔平成 16 年 4 月 1 日〕
〔保健管理センター部局細則第 1 号〕

改正 平成 26 年保健管理センター部局細則第 1 号

国立大学法人筑波大学保健管理センター細則

（趣 旨）

第 1 条 この部局細則は、国立大学法人筑波大学の組織及び運営の基本に関する規則（平成 16 年法人規則第 1 号。以下「基本規則」という。）第 54 条第 3 項の規定に基づき、保健管理センター（以下「センター」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

（業 務）

第 2 条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- (1) 学生及び職員等の健康管理等についての企画及び立案に関すること。
- (2) 職員の採用時における健康診断の実施に関すること。
- (3) 学生及び職員等の定期及び臨時の健康診断の実施並びに保健指導に関すること。
- (4) 学生及び職員等の急病等に対し救急処置を行うとともに、随時健康相談に応じること。
- (5) 環境衛生及び伝染病の予防に関し教育指導を行うこと。
- (6) 健康障害の防止及び保健管理の充実向上のための専門的調査研究を行うこと。
- (7) 学生の修学，対人関係その他生活上の諸問題及び進路指導における適性に関し，相談に応じること。
- (8) 学生の精神衛生管理等に関すること。
- (9) その他健康管理等に関する専門的業務を行うこと。

2 センターは、前項各号の業務のうち職員に係るものについては、基本規則第 35 条第 2 項に規定する特別な組織として設置される環境安全管理室と連携して、これを行うものとする。

（運営委員会）

第 3 条 センターに、基本規則第 57 条に規定する運営委員会として、センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

第 4 条 運営委員会は、次に掲げる委員で組織する。

- (1) センターの長（以下「センター所長」という。）
- (2) センターの業務に従事する大学教員 2 人

- (3) 人間総合科学研究科の業務に従事する大学教員 5 人
 - (4) その他センターの維持運営に係る大学教員 4 人
 - (5) 本部部長であって学生生活に関する業務に従事する職員 1 人
- 2 センター所長は、前項第2号から第4号までの委員の選出に当たっては、当該大学教員の所属長の了承を得るものとする。
- 3 運営委員会に委員長を置き、センター所長をもって充てる。
- 4 委員長は、運営委員会を主宰する。
- 5 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。
- 6 運営委員会は、過半数の委員が出席しなければ、議事を開き、議決することができない。
- 7 運営委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(任 期)

- 第5条 前条第1項第2号から第4号までの委員の任期は、2年とする。ただし、任期の終期は、委員となる日の属する年度の翌年度の末日とする。
- 2 補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 前2項の委員は、再任されることができる。

附 則

- 1 この部局細則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この部局細則施行前に運営委員会の委員である者であって、この部局細則施行後も当該委員として任期が引き続くものについては、この部局細則により運営委員会の委員となるものとみなす。ただし、その任期は、第5条第1項本文の規定にかかわらず、この部局細則施行の日から平成17年3月31日までとする。

附 則

この部局細則は、平成26年12月16日から施行し、改正後の国立大学法人筑波大学保健管理センター細則の規定は、平成25年4月1日から適用する。

3. 保健管理センター運営委員会

1) 運営委員名簿

平成28年4月1日現在

氏 名	職 名	所 属	任 期	備 考
(センター所長)				
太刀川 弘 和	准教授	医 学 医 療 系	－	運営委員会委員長
(センターの業務に従事する大学教員)				
杉 江 征	教 授	人 間 系	26. 4. 1 ～ 28. 3.31	心 理 学 域
久 賀 圭 祐	教 授	医 学 医 療 系	28. 4. 1 ～ 30. 3.31	臨床医学域
(人間総合科学研究科の業務に従事する大学教員)				
吉 田 武 男	教 授	人 間 系	27. 4. 1 ～ 29. 3.31	教 育 学 域
沢 宮 容 子	教 授	人 間 系	27. 4. 1 ～ 29. 3.31	心 理 学 域
檜 澤 伸 之	教 授	医 学 医 療 系	27. 4. 1 ～ 29. 3.31	臨床医学域
青 沼 和 隆	教 授	医 学 医 療 系	27. 4. 1 ～ 29. 3.31	臨床医学域
川 上 康	教 授	医 学 医 療 系	28. 4. 1 ～ 29. 3.31	臨床医学域
(その他センターの維持運営に関係する大学教員)				
野 本 信 也	教 授	数 理 物 質 系	28. 4. 1 ～ 30. 3.31	環境安全管理室長
田 中 博	教 授	生 命 環 境 系	28. 4. 1 ～ 30. 3.31	学生生活支援室長
山 田 幸 雄	教 授	体 育 系	28. 4. 1 ～ 30. 3.31	体育センター長
新 井 哲 明	教 授	医 学 医 療 系	28. 4. 1 ～ 30. 3.31	附属病院 精神神経科グループ長
(本部部長であって学生生活に関する業務に従事する職員)				
生 井 栄	部 長	学 生 部	－	

2) 運営委員会議事

平成28年度の運営委員会は1回開催し、通常議題のほか、保健管理センターの改革について審議を行った。

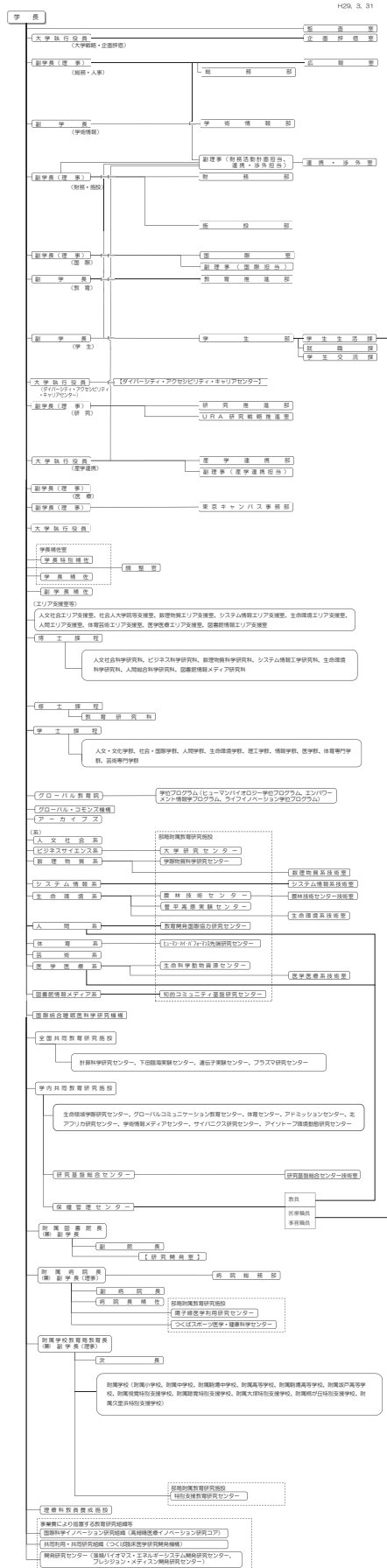
第1回 平成29年2月23日開催

議題等 ・ 保健管理センターの改革について

- ・ 教員人事について
- ・ 平成27年度決算について
- ・ 平成28年度予算配分・執行状況について
- ・ 平成28年度重点施策・改善目標について
- ・ 平成28年度学生定期健康診断の受診状況について
- ・ 平成29年度健康診断実施予定（案）について

4. 保健管理センターの組織図及び職員

1) 組織図



2) 職 員

所 長 精 神 科：太刀川 弘和 准教授,

教 員 内 科：久賀 圭祐 教授*, 坂本 透 准教授, 金子 剛 講師*
整形外科：安部 哲哉 講師, 船山 徹 講師
精 神 科：白鳥 裕貴 講師, 石井 映美 助教
心 理：杉江 征 教授, 田附 あえか 助教, 中岡 千幸 助教,
坂本 憲治 助教, 田中 崇恵 助教

医 療 職 員 諸岡 治美 看護師, 岡本 祐子 看護師, 坂寄 俊子 看護師,
井上 由美 看護師, 寺門 恵美子 看護師
大畑 瞳 薬剤師
福島 幸子 歯科衛生士
片岡 裕司 診療放射線技師

事 務 職 員 穴沢 伊史 主幹, 川崎 由紀子 主任

非 常 勤 医 師 榎本 真美 (内科), 齋藤 洋子 (内科), 下川 治 (内科),
埜口 博司 (整形外科), 宮本 芳明 (整形外科), 武田 さき子 (歯科),
竹田 弘美 (歯科), 佐々木 恵美 (精神科), 石川 正憲 (精神科)

非常勤職員等 渡邊 明子 薬剤師, 吉田 弘子 管理栄養士, 浦橋 洋子 臨床検査技師,
飯田 亜紀 臨床心理士, 吉原 啓 臨床心理士, 佐藤真紀 臨床心理士
河合 由貴子 臨床心理士, 杉村 舞 臨床心理士,
後藤 美和子 臨床心理士, 佐藤 有次朗 臨床心理士 (テスター),
青井 純子 臨床心理士, 小野寺 利津子 臨床心理士,
竹田 祐子 臨床心理士, 山口 佳子 臨床心理士,
高野 雄二 シニアスタッフ, 平田 三代子 看護師, 黒堀 沙織 事務補佐員

(注) *は産業医

他に臨床医学系, 心理学系, 体育科学系からの多数の教員の御協力, 御支援をいただいた。

5. 対 応 業 務 等

4 月	入学式救護と新入生オリエンテーション対応 学群学生，大学院学生，研究生，日本語研修生等の定期健康診断と再検査 フレッシュマンセミナーでの講演
5 月	放射線業務従事者講習会に伴う電離放射線健康診断 学生定期健康診断に伴う再検査・精密検査 障害のある学生定期健康診断 職員一般定期健康診断 学生・職員特殊健康診断 職員便潜血検査・喀痰検査・前立腺特異抗原（PSA）検査 医学群学生ワクチン（B型肝炎）接種 春季スポーツ・デー救護 フレッシュマンセミナーでの講演
6 月	職員一般定期健康診断 学生・職員特殊健康診断 職員の便潜血検査・喀痰検査・前立腺特異抗原（PSA）検査 職員一般定期健康診断（東京地区） 学生・職員特殊健康診断（東京地区） 職員の便潜血検査・喀痰検査・前立腺特異抗原（PSA）検査（東京地区） 学生定期健康診断に伴う再検査・精密検査 体育専門学群学生水泳臨海実習参加者健康診断審査・精密検査 医学群学生ワクチン（B型肝炎）接種
7 月	放射線業務従事者講習会に伴う電離放射線健康診断 学生定期健康診断に伴う再検査・精密検査 共通科目「体育」集中実習（水辺活動）受講学生に対する健康診断審査・精密検査 大学院推薦入学試験に伴う救護 学群編入学試験に伴う救護 全国大学保健管理協会・関東甲信越地方部会研究集会参加
8 月	体育専門学群学生水泳臨海実習参加者健康診断審査・精密検査 大学院入学試験に伴う救護 大学院入学試験に伴う救護（東京地区） 受験生のための筑波大学説明会に伴う救護
9 月	大学院入学試験に伴う救護（東京地区）
10 月	アドミッションセンター入学試験（第Ⅰ期），国際科学オリンピック特別入学試験， 国際バカロレア特別入学試験に伴う救護 大学院入学試験（10月期）に伴う救護 全国大学保健管理研究集会参加

11 月	秋学期入学者・外国人留学生健康診断と再検査 学生・職員特殊健康診断・眼底検査 放射線業務従事者講習会に伴う電離放射線健康診断 職員特殊健康診断（東京地区） 職員の胃 X 線検査・眼底検査（東京地区） 医学群学生ワクチン（インフルエンザ）接種 学園祭に伴う救護 秋季スポーツ・デー救護 学群推薦入学試験に伴う救護 学群推薦入学試験（体育専門学群）に伴う精密検査 全国学生相談研修会参加
12 月	職員の胃 X 線検査 大学院（グローバル教育院）入学試験に伴う救護
1 月	大学入試センター試験に伴う救護 全国学生相談研究会議参加 大学院入学試験に伴う救護
2 月	学生定期健康診断（医学類，看護・医療科学類，教育実習，介護等体験） 大学院入学試験に伴う救護（東京地区） 大学院入学試験（2 月期）に伴う救護 個別学力検査等試験前期日程に伴う精密検査・救護
3 月	放射線業務従事者講習会に伴う電離放射線健康診断 個別学力検査試験後期日程に伴う救護 卒業式・学位記授与式に伴う救護

（注）（東京地区）の記載のないものはすべて筑波地区で実施したもの。

標記の行事等対応業務のほか，次の日常的主要業務を行った。

- ・内科，整形外科，スポーツクリニック，歯科，精神科の日常診療，健康相談，栄養相談，随時
応急措置
- ・学生，職員要経過観察者の管理
- ・学生相談，精神衛生相談，職業適性テスト，ロールシャッハテスト
- ・健康診断証明書の発行
- ・スポーツ健康診断
- ・海外派遣労働者健康診断

6. 入学志願者健康診断書審査及び精密健康診断

月別 区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
学 群											32		32
第 2 次											32		32
学 群 推 薦								26					26
A.C 入 試								26					26
科 目 等													
履修生群生													
大 学 院													
科目等履修生													
大学院研究生													
研 究 生・													
聴 講 生													
理療科教員							9		24				33
養成施設							0		0				0
外 国 人													
留 学 生													
2学期入学													
編 入 学													
計							9	26	24		32		91
							0	26	0		32		58

※上段は書類審査数，下段は精密健康診断を実施

7. 学 生 健 康 診 断

1) 定期健康診断

i) 受診状況

a) 学群生

学 群 ・ 学 類		在籍者数 (人)						受診者数 (人)						受診率 (%)								
		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合 計	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合 計	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合 計
人文・文 化学群	人 文 学 類	129	120	129	155			533	127	105	91	101			424	98.4%	87.5%	70.5%	65.2%			79.5%
	比 較 文 化 学 類	90	84	85	112			371	89	63	74	85			311	98.9%	75.0%	87.1%	75.9%			83.8%
	日本語・日本文化学類	45	46	46	51			188	45	37	40	40			162	100.0%	80.4%	87.0%	78.4%			86.2%
社会・国 際学群	社 会 学 類	103	89	110	134			436	96	61	84	96			337	93.2%	68.5%	76.4%	71.6%			77.3%
	国 際 総 合 学 類	110	101	94	135			440	106	74	74	77			331	96.4%	73.3%	78.7%	57.0%			75.2%
人間学群	教 育 学 類	37	36	39	45			157	37	33	34	31			135	100.0%	91.7%	87.2%	68.9%			86.0%
	心 理 学 類	52	56	50	64			222	52	49	47	38			186	100.0%	87.5%	94.0%	59.4%			83.8%
	障 害 科 学 類	37	38	38	35			148	37	37	35	31			140	100.0%	97.4%	92.1%	88.6%			94.6%
生命環境 学群	生 物 学 類	112	98	101	102			413	110	95	83	85			373	98.2%	96.9%	82.2%	83.3%			90.3%
	生 物 資 源 学 類	169	133	153	165			620	166	119	125	140			550	98.2%	89.5%	81.7%	84.8%			88.7%
	地 球 学 類	60	55	61	65			241	60	48	52	49			209	100.0%	87.3%	85.2%	75.4%			86.7%
理工学群	数 学 類	41	41	39	57			178	41	36	36	37			150	100.0%	87.8%	92.3%	64.9%			84.3%
	物 理 学 類	65	63	65	77			270	63	60	38	48			209	96.9%	95.2%	58.5%	62.3%			77.4%
	化 学 類	53	54	51	54			212	53	48	42	41			184	100.0%	88.9%	82.4%	75.9%			86.8%
	応 用 理 工 学 類	131	128	137	168			564	129	118	117	118			482	98.5%	92.2%	85.4%	70.2%			85.5%
	工学システム学類	134	136	144	167			581	134	118	120	114			486	100.0%	86.8%	83.3%	68.3%			83.6%
	社 会 工 学 類	124	123	129	169			545	124	107	104	116			451	100.0%	87.0%	80.6%	68.6%			82.8%
情報学群	情 報 科 学 類	84	85	107	128			404	84	72	76	65			297	100.0%	84.7%	71.0%	50.8%			73.5%
	情報メディア創生学類	55	52	70	83			260	55	47	61	65			228	100.0%	90.4%	87.1%	78.3%			87.7%
	知識情報・図書館学類	105	106	117	139			467	103	94	102	110			409	98.1%	88.7%	87.2%	79.1%			87.6%
医学群	医 学 類	137	133	126	118	120	125	759	134	121	115	114	115	115	714	97.8%	91.0%	91.3%	96.6%	95.8%	92.0%	94.1%
	看 護 学 類	71	70	81	89			311	71	62	81	84			298	100.0%	88.6%	100.0%	94.4%			95.8%
体 育 芸 術	医 療 科 学 類	39	41	41	46			167	38	38	41	38			155	97.4%	92.7%	100.0%	82.6%			92.8%
	専 門 学 群	256	254	252	280			1,042	254	252	244	231			981	99.2%	99.2%	96.8%	82.5%			94.1%
	専 門 学 群	112	107	110	137			466	110	97	96	99			402	98.2%	90.7%	87.3%	72.3%			86.3%
合 計		2,351	2,249	2,375	2,775	120	125	9,995	2,318	1,991	2,012	2,053	115	115	8,604	98.6%	88.5%	84.7%	74.0%	95.8%	92.0%	86.1%

b) 大学院生

所	属	在籍者数	受診者数	受診率 (%)
修士課程	教 育	188	149	79.3%
	小 計	188	149	79.3%
博士課程	人 文 社 会 科 学	624	358	57.4%
	ビ ジ ネ ス 科 学	522	3	0.6%
	数 理 物 質 科 学	821	667	81.2%
	システム情報工学	1,239	898	72.5%
	生 命 環 境 科 学	1,121	794	70.8%
	人 間 総 合 科 学	2,109	1,101	52.2%
	図 書 館 情 報 メ デ ィ ア	216	124	57.4%
	グローバル教育院	117	86	73.5%
	小 計	6,769	4,031	59.6%
合 計		6,957	4,180	60.1%

c) 研究生

	在籍者数	受診者数	受診率 (%)
外 国 人	1,031	744	72.2%
日 本 人	392	25	6.4%
合 計	1,423	769	54.0%

※ 4 月期, 10 月期入学含む。

ii) 健康診断再検査者

項 目		学 群 生				大 学 院 生				研 究 生 等				合 計			
		対 象 者 数	受 検 者 数	結 果		対 象 者 数	受 検 者 数	結 果		対 象 者 数	受 検 者 数	結 果		対 象 者 数	受 検 者 数	結 果	
				要 治 療	経 過 観 察			要 治 療	経 過 観 察			要 治 療	経 過 観 察			要 治 療	経 過 観 察
胸 部 X 線		27	27	0	21	19	19	3	14	9	9	0	8	55	55	3	43
血 圧		5	4	1	3	12	10	3	6	2	1	0	1	19	15	4	10
尿	蛋 白	46	28	0	0	19	12	0	1	8	7	0	0	73	47	0	1
	糖	25	21	0	1	13	11	1	0	3	3	1	1	41	35	2	2
心 電 図		27	26	0	16									27	26	0	16
貧 血		30	27	7	15									30	27	7	15
肥 満		9	1	0	1									9	1	0	1
計		169	134	8	57	63	52	7	21	22	20	1	10	254	206	16	88

(注) 貧血検査対象者は、学群新入生女子及び、体育専門学群新入生男子である。

(注) 心電図検査対象者は、学群の新入生（但し編入生は除く）及び、体育専門学群生全員である。

(注) 結果：異常なしは、受検者数 - (要治療 + 経過観察) である。

2) 学生特殊健康診断

i) 電離放射線健康診断：学群生及び大学院生（研究生含む）

実 施 月	対 象 数	受 診 数	要再検数	結 果		
				異常なし	要 観 察	要 治 療
5 月（11日）	126	121	0	120	1	0
6 月（1日）	28	26	0	26	0	0
5 月	242	163	0	126	27	0
7 月（13日）	24	18	0	16	2	0
11 月（9日）	18	14	0	12	2	0
11 月	306	181	0	159	22	0
平成29年 3 月	54	48	0	39	9	0
合 計	798	571	0	498	63	0

（注）実施月のうち5月，11月以外は，新規に放射線作業に従事するために講習を受けた者のみの健康診断である。

ii) 有機溶剤健康診断：学群生及び大学院生（研究生含む）

実 施 月	対 象 数	受 診 数	要再検数	結 果		
				異常なし	要 観 察	要 治 療
5 月	54	54	1	43	11	0
11 月	19	19	1	15	4	0
合 計	73	73	2	58	15	0

3) 特定化学物質健康診断

i) 学群生及び大学院生（研究生含む）

実 施 月	対 象 数	受 診 数	要再検数	結 果		
				異常なし	要 観 察	要 治 療
5 月	50	50	2	28	22	0
11 月	24	24	3	17	7	0
合 計	74	74	5	45	29	0

8. 職 員 一 般 定 期 健 康 診 断

1) 定期健康診断

i) 受診者数及び受診率

(平成28年6月1日在職者，非常勤職員：週20時間以上の勤務者)

事業場	受診者数／職員数（受診率）		
	常勤	非常勤	全体
大学本部等事業場	2,551/2,805（90.9%）	615/667（92.2%）	3,166/3,472（91.2%）
附属病院事業場	1,500/1,584（94.7%）	476/497（95.8%）	1,976/2,081（95.0%）
東京キャンパス事業場	126/140（90.0%）	14/14（100.0%）	140/154（90.9%）
附属小学校事業場	35/39（89.7%）	7/8（87.5%）	42/47（89.4%）
附属中学校事業場	33/33（100.0%）		33/33（100.0%）
附属高等学校事業場	42/44（95.5%）	2/2（100.0%）	44/46（95.7%）
附属駒場中学校・ 附属駒場高等学校事業場	46/49（93.9%）	2/2（100.0%）	48/51（94.1%）
附属坂戸高等学校事業場	41/50（82.0%）	1/1（100.0%）	42/51（82.4%）
附属視覚特別支援学校事業場	103/110（93.6%）	2/2（100.0%）	105/112（93.8%）
附属聴覚特別支援学校事業場	102/104（98.1%）	3/3（100.0%）	105/107（98.1%）
附属大塚特別支援学校事業場	37/44（84.1%）		37/44（84.1%）
附属桐が丘特別支援学校事業場	68/73（93.2%）	8/8（100.0%）	76/81（93.8%）
附属久里浜特別支援学校事業場	41/41（100.0%）	2/3（66.7%）	43/44（97.7%）
計	4,725/5,116（92.4%）	1,132/1,207（93.8%）	5,857/6,323（92.6%）
（平成27年度）	4,778/5,085（94.0%）	1,181/1,260（93.7%）	5,959/6,345（93.9%）

(平成29年1月31日までの集計結果)

健康診断実施日 筑波地区：平成28年5月31日～6月9日（8日間） 11月9日～11月14日（4日間）
 東京地区：平成28年6月22日～6月24日（3日間） 11月25日（1日間）
 附属坂戸高等学校事業場，附属久里浜養護学校事業場，その他の遠隔地では別日程で実施。人間ドックや他の医療機関等の結果報告を含む。

ii) 項目別有所見者数及び率とその内訳

項 目	実施者数	有所見者		要経過観察		要精密検査		要治療		治療継続	
		人数	率	人数	率	人数	率	人数	率	人数	率
聴力検査 (1000Hz)	2,823 人	104 人	3.7 %	104 人	3.7 %	0 人	0 %	0 人	0 %	0 人	0 %
聴力検査 (4000Hz)	2,823 人	180 人	6.4 %	180 人	6.4 %	0 人	0 %	0 人	0 %	0 人	0 %
聴力検査 (会話法)	2,774 人	7 人	0.3 %	7 人	0.3 %	0 人	0 %	0 人	0 %	0 人	0 %
胸部エックス線 検査	5,130 人	445 人	8.7 %	200 人	3.9 %	35 人	0.7 %	0 人	0 %	0 人	0 %
喀痰検査	0 人										
血圧検査	5,646 人	1,428 人	25.3 %	977 人	17.3 %	71 人	1.3 %	24 人	0.4 %	356 人	6.3 %
貧血検査	5,643 人	1,308 人	23.2 %	1,060 人	18.8 %	142 人	2.5 %	55 人	1.0 %	51 人	0.9 %
肝機能検査	4,128 人	995 人	24.1 %	658 人	15.9 %	315 人	7.6 %	7 人	0.2 %	15 人	0.4 %
血中脂質検査	4,128 人	2,269 人	55.0 %	1,574 人	38.1 %	499 人	12.1 %	6 人	0.1 %	190 人	4.6 %
血糖検査	4,125 人	684 人	16.6 %	491 人	11.9 %	63 人	1.5 %	6 人	0.1 %	124 人	3.0 %
尿検査（糖）	5,594 人	174 人	3.1 %	1 人	0.1 %	49 人	0.9 %	0 人	0 %	124 人	2.2 %
尿検査（蛋白）	5,609 人	73 人	1.3 %	49 人	0.9 %	6 人	0.1 %	0 人	0 %	18 人	0.3 %
心電図検査	4,243 人	235 人	5.5 %	16 人	0.4 %	154 人	3.6 %	0 人	0 %	32 人	0.8 %

健康診断実施者中における上記項目全体の総合判定結果の人数と率

要経過観察		要精密検査		要治療		治療継続	
人数	率	人数	率	人数	率	人数	率
2,560 人	43.7%	1,418 人	24.2%	106 人	1.8%	646 人	11.0%

健康診断実施者中における上記項目全体の有所見者数及び率と要指示者数及び率

1 つ以上所見のある者の数	有所見率	医療機関受診が必要な者の数	要指示率
3,809 人	65.0%	1,294 人	22.1%

iii) 労働安全衛生規則第13条第1項第2号の業務（特定業務）の従事者

業務	高熱	低温	放射線	粉じん	異常気圧	振動	重量物
人数	2人	4人	121人	0人	1人	0人	23人
業務	騒音	坑内	深夜	酸・アルカリ	有害物ガス	病原体汚染	その他
人数	1人	0人	296人	15人	4人	140人	0人

iv) 胃造影検査

地 区	対象数	受診数	受診率	要再検数
筑波地区	2,620	25	1.0%	2
東京地区	502	13	2.6%	1
合 計	3,122	38	1.2%	3

(注) 対象は40才以上の常勤職員。平成25年度から全員間接撮影。

2) 特殊健康診断

i) 電離放射線健康診断：職員（常勤職員及び非常勤職員，研究員，その他）

実 施 月	対 象 数	受 診 数	要再検数	結 果		
				異常なし	要 観 察	要 治 療
5 月（11日）	6	6	0	3	3	0
6 月（1日）	4	3	0	3	0	0
5 月	530	510	0	381	129	0
7 月（13日）	4	4	0	4	0	0
11 月（9日）	5	5	0	5	0	0
11 月	582	286	0	256	30	0
平成29年 3 月	6	6	0	6	0	0
合 計	1137	820	0	658	162	0

（注）実施月のうち5月，11月以外は，新規に放射線作業に従事するために講習を受けた者のみの健康診断である。

ii) 有機溶剤健康診断：職員（常勤職員及び非常勤職員，研究員，その他）

実 施 月	対 象 数	受 診 数	要再検数	結 果		
				異常なし	要 観 察	要 治 療
5 月	30	30	0	30	0	0
11 月	31	31	0	31	0	0
合 計	61	61	0	61	0	0

iii) 特定化学物質健康診断：職員（常勤職員及び非常勤職員，研究員，その他）

実 施 月	対 象 数	受 診 数	要再検数	結 果		
				異常なし	要 観 察	要 治 療
5 月	33	33	0	30	3	0
11 月	26	26	0	22	4	0
合 計	59	59	0	52	7	0

3) 特定健康診査（メタボリックシンドローム健康診断） 40歳以上職員

対象		対象者数	受診者数 (受診率)	危険度 0 (該当率)	危険度 1 (該当率)	危険度 2 (該当率)	危険度 3 (該当率)	危険度 4 (該当率)	判定不能 (該当率)
男	常勤	2,061人	1,736人	968人	138人	311人	229人	87人	3人
			(84.2%)	(55.8%)	(7.9%)	(17.9%)	(13.2%)	(5.0%)	(0.2%)
	非常勤	123人	123人	67人	7人	18人	21人	10人	0人
			(100.0%)	(54.5%)	(5.7%)	(14.6%)	(17.1%)	(8.1%)	(0.0%)
	小計	2,184人	1,859人	1,035人	145人	329人	250人	97人	3人
			(85.1%)	(55.7%)	(7.8%)	(17.7%)	(13.4%)	(5.2%)	(0.2%)
女	常勤	1,027人	936人	836人	36人	43人	12人	9人	0人
			(91.1%)	(89.3%)	(3.8%)	(4.6%)	(1.3%)	(1.0%)	(0.0%)
	非常勤	537人	537人	487人	12人	18人	14人	3人	3人
			(100.0%)	(90.7%)	(2.2%)	(3.4%)	(2.6%)	(0.6%)	(0.6%)
	小計	1,564人	1,473人	1,323人	48人	61人	26人	12人	3人
			(94.2%)	(89.8%)	(3.3%)	(4.1%)	(1.8%)	(0.8%)	(0.2%)
計	3,748人	3,332人	2,358人	193人	390人	276人	109人	6人	
		(88.9%)	(70.8%)	(5.8%)	(11.7%)	(8.3%)	(3.3%)	(0.2%)	
治療薬服用者 (既治療率)				213人		82人	111人	65人	
				(9.0%)		(21.0%)	(40.2%)	(59.6%)	

●診断基準

1. 腹囲 男性85cm以上 女性90cm以上

+

2. 血糖：空腹時血糖が110mg/dl以上 または ヘモグロビンA1c値が5.5%以上
または 糖尿病で薬剤治療中
3. 血圧：収縮期血圧が130mmHg以上 または 拡張期血圧が85mmHg以上
または 高血圧で薬剤治療中
4. 脂質：中性脂肪値が150mg/dl以上 または HDLコレステロール値が40mg/dl未満
または 脂質異常症で薬剤治療中

●判定基準

危険度0（メタボリックシンドローム基準非該当）：全項目該当なし

危険度1（メタボリックシンドローム基準非該当）：腹囲のみ該当

危険度2（メタボリックシンドローム予備群該当）：腹囲＋1項目に該当

危険度3（メタボリックシンドローム基準該当）：腹囲＋2項目に該当

危険度4（メタボリックシンドローム基準該当）：全項目に該当

判定不能：未実施項目があり判定できない

4) その他

i) 便潜血反応検査

地 区	対象数	受診数	受診率	要再検数
筑波地区	2,620	127	4.8%	4
東京地区	502	46	9.2%	3
合 計	3,122	173	5.5%	7

(注) 対象は40才以上の常勤職員の希望者。

免疫学的便潜血反応検査（ラテックス凝縮法）を用いた。

ii) 喀痰細胞診検査

地 区	対象数	受診数	受診率	要再検数
筑波地区	2,620	69	2.6%	0
東京地区	502	41	8.2%	0
合 計	3,122	110	3.5%	0

(注) 対象は40才以上の常勤職員の希望者。3日間連続蓄痰法により検査した。

iii) 眼底検査

地 区	対象数	受診数	受診率	要再検数
筑波地区	172	80	46.5%	21
東京地区	24	12	50.0%	0
合 計	196	92	46.9%	21

(注) 対象はHbA1c 6.5以上、最高血圧160以上、最低血圧100以上のいずれかに該当する者。

iv) P S A検査

地 区	対象数	受診数	受診率	要再検数
筑波地区	716	452	63.1%	43
東京地区	120	80	66.7%	14
合 計	836	532	63.6%	57

(注) 対象は、S37.3.31以前生まれの常勤男性職員。

9. 保健管理センター利用状況

1) 健康相談月別利用状況

i) 学生内科受診数

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人文・文化学群生	8	20	19	8	9	7	25	14	22	22	10	4	168
社会・国際学群生	6	18	23	11	2	9	21	11	24	18	15	8	166
人 間 学 群 生	1	23	4	7	6	6	7	7	7	7	5	1	81
生命環境学群生	12	38	15	15	5	8	35	22	20	20	19	15	224
理 工 学 群 生	17	78	33	34	7	12	38	21	32	43	23	18	356
情 報 学 群 生	6	17	18	15	3	6	21	6	19	12	9	5	137
医 学 群 生	7	25	20	33	8	13	24	11	20	20	24	6	211
体育専門学群生	4	35	34	20	4	4	21	12	16	29	15	11	205
芸術専門学群生	3	14	15	18	8	4	15	4	12	9	6	3	111
学 群 生 小 計	64	268	181	161	52	69	207	108	172	180	126	71	1,659
大 学 院 生	29	126	80	96	46	52	119	84	86	75	75	58	926
研 究 生 等	11	30	19	15	7	2	32	29	40	26	13	33	257
大学院・研究生等 小 計	40	156	99	111	53	54	151	113	126	101	88	91	1,183
合 計	104	424	280	272	105	123	358	221	298	281	214	162	2,842

ii) 学生整形外科受診数

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人文・文化学群生	4	2	5	5	5	5	8		6	12	1	8	61
社会・国際学群生	4	6	5	5	3	6	12	5	7	5	6	6	70
人 間 学 群 生			1	4	3	2	4	3	4		2	1	24
生命環境学群生		4	9	11	3	6	9	13	14	4	5	11	89
理 工 学 群 生	6	19	17	24	10	16	15	17	17	9	11	11	172
情 報 学 群 生	2	2	9	5	2		5	4	5	3	6	4	47
医 学 群 生	3	7	9	16	5	16	13	8	9	16	9	11	122
体育専門学群生	12	32	21	21	24	36	35	18	28	16	21	28	292
芸術専門学群生		2		3	1	1	2	1	1	1	3	3	18
学 群 生 小 計	31	74	76	94	56	88	103	69	91	66	64	83	895
大 学 院 生	6	22	17	22	20	16	25	12	21	19	17	20	217
研 究 生 等	1	3	6	4	4	1	8	4	5	4	4	6	50
大学院・研究生等 小 計	7	25	23	26	24	17	33	16	26	23	21	26	267
合 計	38	99	99	120	80	105	136	85	117	89	85	109	1,162

iii) 学生外科処置受診数

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人文・文化学群生	5	2	3	3	1		2	2				1	19
社会・国際学群生			2			1			2	1	1		7
人 間 学 群 生	1	1							1		1		4
生命環境学群生	2	2	6	2				3	1		1		17
理 工 学 群 生	4	1	1	2						1	2	1	12
情 報 学 群 生		2	3	1			1						7
医 学 群 生	1	3	2				1	2	1			1	11
体育専門学群生	1	2		2			1			1			7
芸術専門学群生	2	3	2	2				1	1				11
学 群 生 小 計	16	16	19	12	1	1	5	8	6	3	5	3	95
大 学 院 生	6	3	4	7		1	3	1	1	5	6	4	41
研 究 生 等	3	3	2	4	1		3	4		1	1	2	24
大学院・研究生等 小 計	9	6	6	11	1	1	6	5	1	6	7	6	65
合 計	25	22	25	23	2	2	11	13	7	9	12	9	160

iv) 学生歯科受診数

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人文・文化学群生	3	11	12	7	11	8	4	7	12	13	14	9	111
社会・国際学群生	2	8	2	9		5	4	6	8	7	7	5	63
人 間 学 群 生	2		5	5	3	10	3	4	3	2	4	5	46
生命環境学群生	1	8	10	12	4	8	5	7	5	11	16	7	94
理 工 学 群 生	7	13	9	12	11	15	15	9	16	7	15	11	140
情 報 学 群 生	5	11	4	5	1		4	5	9	20	10	5	79
医 学 群 生	3	6	5	8	3	9	4	5	11	5	4	8	71
体育専門学群生	3	9	1	5	2	5	1	4	4	5	10	6	55
芸術専門学群生	1	1	4	6	5		3	5			3	5	33
学 群 生 小 計	27	67	52	69	40	60	43	52	68	70	83	61	692
大 学 院 生	18	80	45	56	45	49	52	22	45	40	87	55	594
研 究 生 等	5	8	12	5	5	9	15	9	17	19	18	20	142
大学院・研究生等 小 計	23	88	57	61	50	58	67	31	62	59	105	75	736
合 計	50	155	109	130	90	118	110	83	130	129	188	136	1,428

v) 職員・その他

月 区分/ 科別内訳	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
本学職員	6	13	16	16	17	9	9	12	17	17	12	16	160
その他の 外 来 者		1		2			1		3				7
区分合計	6	14	16	18	17	9	10	12	20	17	12	16	167
内 科	2	9	15	15	14	8	7	8	15	13	8	12	126
整形外科	1	3		2	3	1	1	3	4	3	3	1	25
歯 科	1						1	1	1	1	1	1	7
外科処置	2	2	1	1			1					2	9
科別合計	6	14	16	18	17	9	10	12	20	17	12	16	167

(注) その他の外来者とは、本学校内における公開講座，合宿の参加者，見学者などである。

2) 学生相談利用状況

i) 学生相談内訳

保健管理センターと春日相談室合計

区 分		修 学	進 路	友 人 関 係	異 性	結 婚	家 庭	情 緒 性 格	人 生 問 題	経 済	住 居	そ の 他 の 問 題	U P I 呼 出 面 接 * (1)	合 計	実 数
学 群 学 生	人 文 ・ 文 化 学 群	62	40	10	3		10	340	10			18	17	510	89
	社 会 ・ 国 際 学 群	8	5	5	1			108	4			7	16	153	44
	人 間 学 群	3	4	2				128	2			5	9	153	31
	生 命 環 境 学 群	14	15		1			143			1	11	23	208	54
	理 工 学 群	96	7	18	6		7	315	2			15	17	483	89
	情 報 学 群	71	12	27	7		1	244				34	22	418	76
	医 学 群	59	2	2	1			77	1			15	16	173	46
	体 育 専 門 学 群				3			32				3	10	48	20
	芸 術 専 門 学 群	10	4				3	110	1			8	5	141	37
	小 計	323	89	64	22		21	1,497	20		1	116	135	2,288	486
大 学 院 生	教 育 研 究 科	14	4		1			82				1		102	12
	人 文 社 会 科 学 研 究 科	38	9	14	1		4	156				7		229	31
	人 間 総 合 科 学 研 究 科	29	19		5		8	164	4		1	7		237	42
	生 命 環 境 科 学 研 究 科	27	5		4			73	8			8		125	34
	数 理 物 質 科 学 研 究 科	71	3				6	83				1		164	28
	シ ス テ ム 情 報 工 学 研 究 科	154	29	6	7		3	208				10		417	46
	図 書 館 情 報 メ デ ィ ア 研 究 科	39	2				2	68				1		112	15
	ビ ジ ネ ス 科 学 研 究 科							3						3	1
	グ ロ ー バ ル 教 育 院							3				1		4	2
	小 計	372	71	20	18		23	840	12		1	36		1,393	211
研 究 生								2				2		4	1
そ の 他		4				1		11				2		18	5
合 計		699	160	84	40	1	44	2,350	32		2	156	135	3,703	703
実 数		109	27	9	10	0	9	343	8	0	1	56	131	703	

(*1) UPI (University Personality Inventory) とは、大学生の心の健康調査をいう。

(保健管理センター)

区 分		修 学	進 路	友人 関係	異 性	結 婚	家 庭	情 緒 性 格	人 生 問 題	経 済	住 居	その 他 の 問 題	面 接 * (1)	U P I 呼 出	合 計	実 数
学 群	人 文 ・ 文 化 学 群	59	40	4	3		10	339	10			18	17	500	87	
	社 会 ・ 国 際 学 群	8	5	5	1			108	4			7	15	153	44	
	人 間 学 群	3	4	2				128	2			5	9	153	31	
	生 命 環 境 学 群	14	15		1			143			1	11	23	208	54	
	理 工 学 群	89	7	18	6		7	292	2			15	17	453	86	
	情 報 学 群	36	12	27	5		1	202				26	19	328	60	
	医 学 群	59	2	2	1			77	1			1	16	159	45	
	体 育 専 門 学 群				3			27				3	10	43	19	
	芸 術 専 門 学 群	10	4				3	108	1			7	5	138	35	
小 計		278	89	58	20		21	1,424	20		1	93	131	2,135	461	
大 学 院 生	教 育 研 究 科	14	4		1			79				1		99	11	
	人 文 社 会 科 学 研 究 科	38	9	14	1		4	154				6		226	29	
	人 間 総 合 科 学 研 究 科	29	19		5		8	164	4		1	7		237	42	
	生 命 環 境 科 学 研 究 科	27	5		4			73	8			8		125	34	
	数 理 物 質 科 学 研 究 科	71	3				5	73				1		153	26	
	シ ス テ ム 情 報 工 学 研 究 科	154	29	6	7		3	208				10		417	46	
	図 書 館 情 報 メ デ ィ ア 研 究 科	17	2				1	20						40	7	
	ビ ジ ネ ス 科 学 研 究 科							3						3	1	
	グ ロ ー バ ル 教 育 院							3				1		4	2	
小 計		350	71	20	18		21	777	12		1	34		1,304	198	
研 究 生								2				2		4	1	
そ の 他		4				1		8				2		15	4	
合 計		632	160	78	38	1	42	2,211	32		2	131	131	3,458	664	
実 数		97	27	9	10	0	9	318	8	0	1	54	131	664		

(*1) UPI (University Personality Inventory) とは、大学生の心の健康調査をいう。

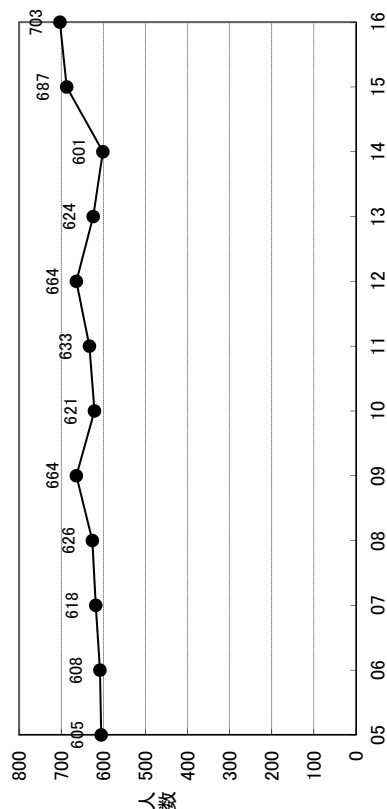
(春日での学生相談)

区 分		修 学	進 路	友人 関係	異 性	結 婚	家 庭	情 緒 性 格	人 生 問 題	経 済	住 居	その他の 問題	面 接 ＊ （１）	Ｕ Ｐ Ｉ 呼 出	合 計	実 数
学 群 学 生	人 文 ・ 文 化 学 群	3		6				1							10	2
	社 会 ・ 国 際 学 群												1			
	人 間 学 群															
	生 命 環 境 学 群															
	理 工 学 群	7						23							30	3
	情 報 学 群	35			2			42				8	3		90	16
	医 学 群											14			14	1
	体 育 専 門 学 群							5							5	1
	芸 術 専 門 学 群							2				1			3	2
小 計		45		6	2			73				23	4		153	25
大 学 院 生	教 育 研 究 科							3							3	1
	人 文 社 会 科 学 研 究 科							2				1			3	2
	人 間 総 合 科 学 研 究 科															
	生 命 環 境 科 学 研 究 科															
	数 理 物 質 科 学 研 究 科						1	10							11	2
	シ ス テ ム 情 報 工 学 研 究 科															
	図 書 館 情 報 メ デ ィ ア 研 究 科	22					1	48				1			72	8
	ビ ジ ネ ス 科 学 研 究 科															
	グ ロ ー バ ル 教 育 院															
小 計		22					2	63				2			89	13
研 究 生																
そ の 他								3							3	1
合 計		67		6	2		2	139				25	4		245	39
実 数		12						25				2			39	

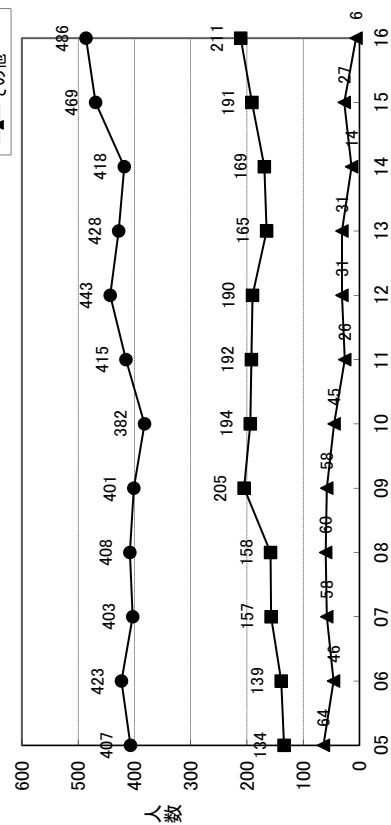
(*1) UPI (University Personality Inventory) とは、大学生の心の健康調査をいう。

ii) 学生相談室利用者の年次推移

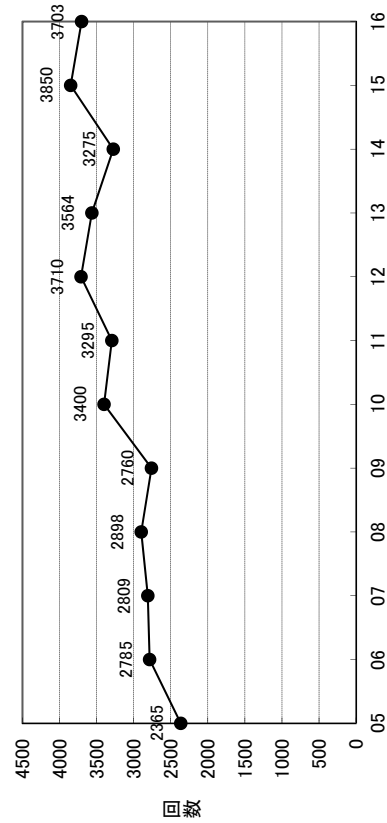
利用者実数(学生相談室)



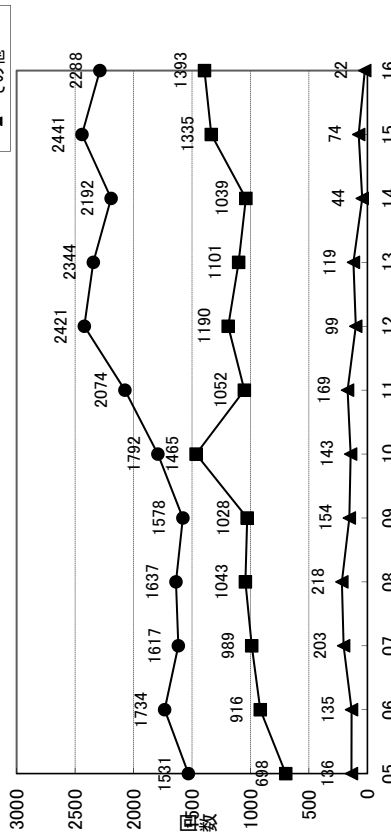
所属別利用者実数(学生相談室)



延べ面接等回数(学生相談室)



所属別延べ面接等回数(学生相談室)



iii-1) 総合相談窓口内訳（スチューデントプラザ相談窓口と春日相談窓口の合計）

	学生本人	保護者・家族	友人・知人	教職員	その他	総計
相 談						
進路	21	4		2	0	27
修学	91	12		16	0	119
情緒・性格	33	3		0	0	36
対人関係	49	2	1	3	0	55
症状・疾患	47	7	4	9	0	67
学生生活	23	1	1	3	0	28
事件・事故対応	2			0	0	2
自殺関係	4		3	2	0	9
ハラスメント	5			0	0	5
各種問い合わせ				1	0	1
その他	7	1		0	1	9
	282	30	9	36	1	358
問い合わせ						
進路	5	1		0	0	6
修学	10	6		2	1	19
情緒・性格					0	0
対人関係				0	0	0
症状・疾患	1	5		1	0	7
学生生活	11	1		2	1	15
事件・事故対応				0	0	0
自殺関係				0	0	0
ハラスメント		22		0	0	22
各種問い合わせ	110			9	21	140
その他	1	1		2	0	4
	138	35		16	23	213
苦情要望						
進路				0	0	0
修学				0	0	0
情緒・性格				0	0	0
対人関係				0	0	0
症状・疾患				0	0	0
学生生活	2			0	0	2
事件・事故対応		1		0	0	1
自殺関係				0	0	0
ハラスメント				0	0	0
各種問い合わせ				0	0	0
その他	2			0	0	2
	4	1				5
その他						
進路				4	0	4
修学				1	0	1
情緒・性格				0	0	0
対人関係				0	0	0
症状・疾患				1		1
学生生活				0	0	0
事件・事故対応				0	0	0
自殺関係				0	1	1
ハラスメント				0		0
各種問い合わせ		0	0	0	0	0
その他	2		0		1	3
	2			6	2	10
総 計	426	66	9	58	26	585

iii-2) 総合相談窓口内訳（スチューデントプラザ相談窓口利用状況）

	学生本人	保護者・家族	友人・知人	教職員	その他	総計
相 談						
進路	20	4		1	0	25
修学	77	11		10	0	98
情緒・性格	30	3		0	0	33
対人関係	33	2	1	1	0	37
症状・疾患	37	7	3	7	0	54
学生生活	20	1	1	3	0	25
事件・事故対応	2			0	0	2
自殺関係	4		3	1	0	8
ハラスメント	4			0	0	4
各種問い合わせ	6	1		1	0	8
その他				0	1	1
	233	29	8	24	1	295
問い合わせ						
進路	1	1		0		2
修学	8	4		2	1	15
情緒・性格				0	0	0
対人関係				0	0	0
症状・疾患	1			1	0	2
学生生活	10	5		2	1	18
事件・事故対応		1		0	0	1
自殺関係				0	0	0
ハラスメント				0	0	0
各種問い合わせ	98	17		7	20	142
その他	1			1	0	2
	119	28	0	13	22	182
苦情要望						
進路		0		0	0	0
修学		0	0	0	0	0
情緒・性格		0	0	0	0	0
対人関係		0	0	0	0	0
症状・疾患		0	0	0	0	0
学生生活	2	0		0	0	2
事件・事故対応		0	0	0	0	0
自殺関係		0	0	0	0	0
ハラスメント		1	0	0	0	1
各種問い合わせ		0	0	0	0	0
その他	2	0	0	0	0	2
	4	1	0	0	0	5
その他						
進路	0	0	0	0	0	0
修学	0	0	0	1	0	1
情緒・性格	0	0	0	0	0	0
対人関係	0	0	0	0	0	0
症状・疾患		0	0	1	0	1
学生生活	0	0	0	0	0	0
事件・事故対応	0		0	0	0	0
自殺関係	0		0	0	1	1
ハラスメント	0	0	0	0	0	0
各種問い合わせ	0	0	0	0	0	0
その他	2		0	0	1	3
	2	0	0	2	2	6
総 計	358	58	8	39	25	488

iii-3) 総合相談窓口内訳（春日相談窓口利用状況）

	学生本人	保護者・家族	友人・知人	教職員	その他	総計
相 談						
進路	1			1	0	2
修学	14	1		6	0	21
情緒・性格	3				0	3
対人関係	16			2	0	18
症状・疾患	10		1	2	0	13
学生生活	3				0	3
事件・事故対応					0	0
自殺関係				1	0	1
ハラスメント	1				0	1
各種問い合わせ					0	0
その他	1				0	1
	49	1	1	12	0	63
問い合わせ						
進路	4				0	4
修学	2	2			0	4
情緒・性格					0	0
対人関係					0	0
症状・疾患					0	0
学生生活	1				0	1
事件・事故対応					0	0
自殺関係					0	0
ハラスメント					0	0
各種問い合わせ	12	5		2	1	20
その他				1	0	1
	19	7	0	3	1	30
苦情要望						
進路	0	0	0	0	0	0
修学	0	0	0	0	0	0
情緒・性格	0	0	0	0	0	0
対人関係	0	0	0	0	0	0
症状・疾患	0	0	0	0	0	0
学生生活	0	0		0	0	0
事件・事故対応	0	0	0	0	0	0
自殺関係	0		0	0	0	0
ハラスメント	0	0	0	0	0	0
各種問い合わせ	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0
その他						
進路	0	0	0	4	0	4
修学	0	0	0	0	0	0
情緒・性格	0	0	0	0	0	0
対人関係	0	0	0	0	0	0
症状・疾患	0	0	0	0	0	0
学生生活	0	0	0	0	0	0
事件・事故対応	0	0	0	0	0	0
自殺関係	0		0	0	0	0
ハラスメント		0	0	0	0	0
各種問い合わせ	0	0	0	0	0	0
その他			0	0	0	0
	0	0	0	4	0	4
総 計	68	8	1	19	1	97

3) 精神衛生相談利用状況

i) 精神衛生相談内訳

区 分			延数	実数
学 群	人文・文化学群	人 文 学 類	203	28
		比 較 文 化 学 類	93	20
		日本語・日本文化学類	146	17
	社会・国際学群	社 会 学 類	105	14
		国 際 総 合 学 類	45	10
	人間学類	教 育 学 類	29	6
		心 理 学 類	82	15
		障 害 科 学 学 類	46	8
	生命環境学群	生 物 学 類	143	25
		生 物 資 源 学 類	63	10
		地 球 学 類	50	4
	理工学群	数 学 類	44	5
		物 理 学 類	29	8
		化 学 類	10	5
		応 用 理 工 学 類	106	16
		工学システム学類	205	19
		社 会 工 学 類	33	8
	情報学群	情 報 科 学 類	105	15
		情報メディア創成学類	138	11
		知識情報・図書館学類	133	25
	医学群	医 学 類	178	24
		看 護 学 類	101	16
		医 療 科 学 類	26	3
	体 育 専 門 学 群		63	12
	芸 術 専 門 学 群		292	37
小	計		2,468	361

区 分			延数	実数
大学院生	修 士（前期）課 程		988	161
	博 士（後期）課 程		665	72
	小 計		1,653	233
研 究 生			34	11
そ の 他			11	7
合 計			4,166	612

ii) ICD-10分類による学生の診断別件数（実数）と副診断

器質性精神障害

F00	1	
F06	1	
F09	2	
計	4	

症状精神病

精神作用物質による精神および行動の障害

F10	1	
計	1	

アルコール

統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害

副診断

F20	25	
F21	19	84(2), 90(1)
F23	1	
F25	1	
F28	1	
計	47	

統合失調症

気分障害

副診断

F31	18	90(1)
F32	98	50(1), 60(1), 84(4), 90(2)
F33	8	84(1)
F34	15	
F38	7	98(1)
計	146	

躁うつ病

うつ病

反復性うつ病

持続性気分障害

神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害

副診断

F40	20	42(1)
F41	23	90(3)
F42	16	40(1)
F43	184	34(1), 84(4), 90(3), 94(1), 98(2)
F44	5	
F45	6	
F48	2	
計	256	

社会不安障害など
パニック障害など

適応障害

生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群

副診断

F50	18	40(1), 60(1)
F51	46	43(2), 84(2), 90(1)
F52	1	
F54	1	90(1)
計	66	

摂食障害

非器質性睡眠障害

成人の人格および行動の障害

F60	9	
F63	2	
F64	4	
計	15	

心理的発達の障害

副診断

F84	38	31(1), 43(1), 90(2)
計	38	

広汎性発達障害

小児＜児童＞期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害

副診断

F90	14	43(1)
F94	1	
F95	1	
F98	8	51(1), 84(1)
計	24	

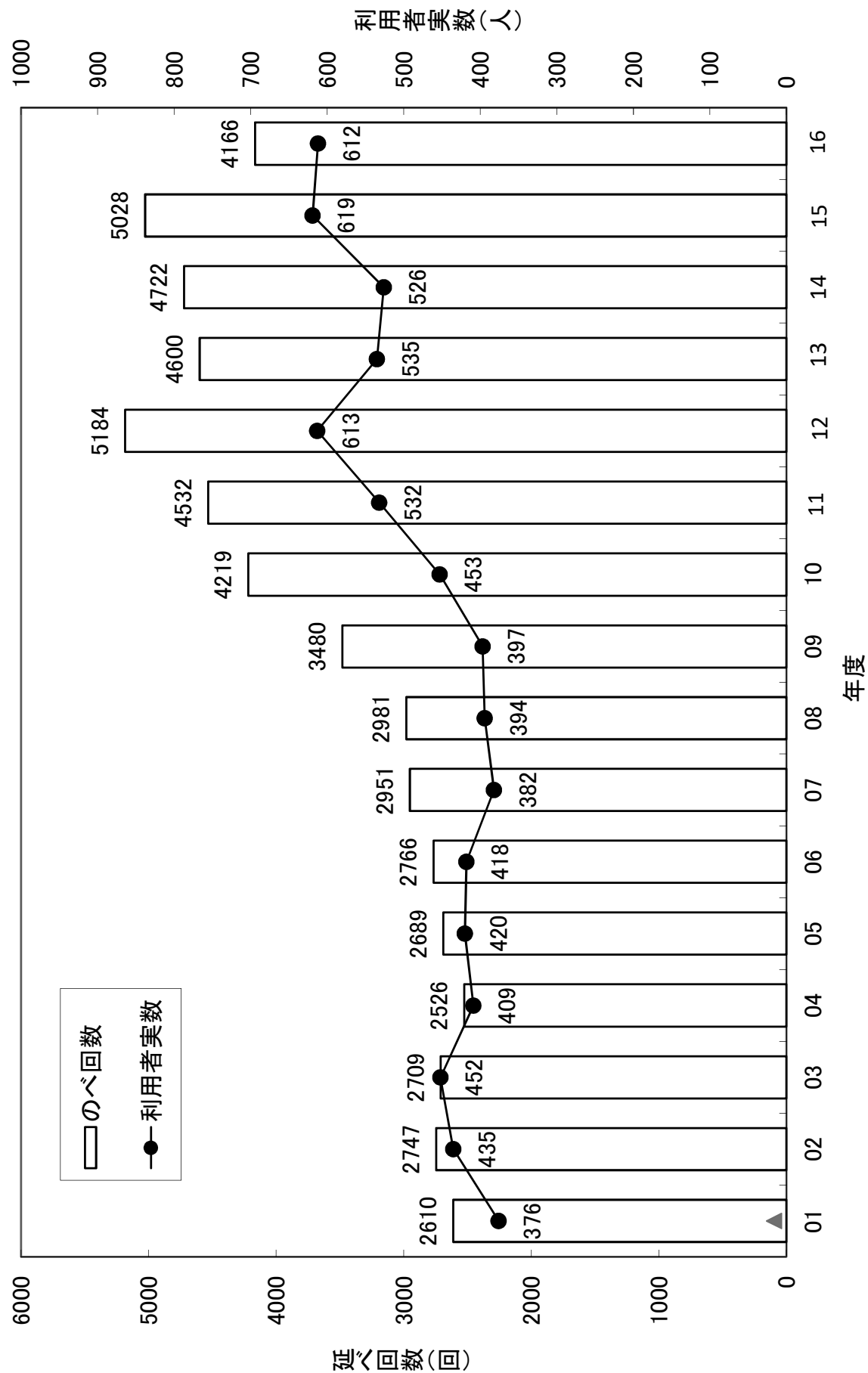
多動性障害

その他

てんかん	1	
問題なし	6	
不明	9	
計	16	

合計	612	45
----	-----	----

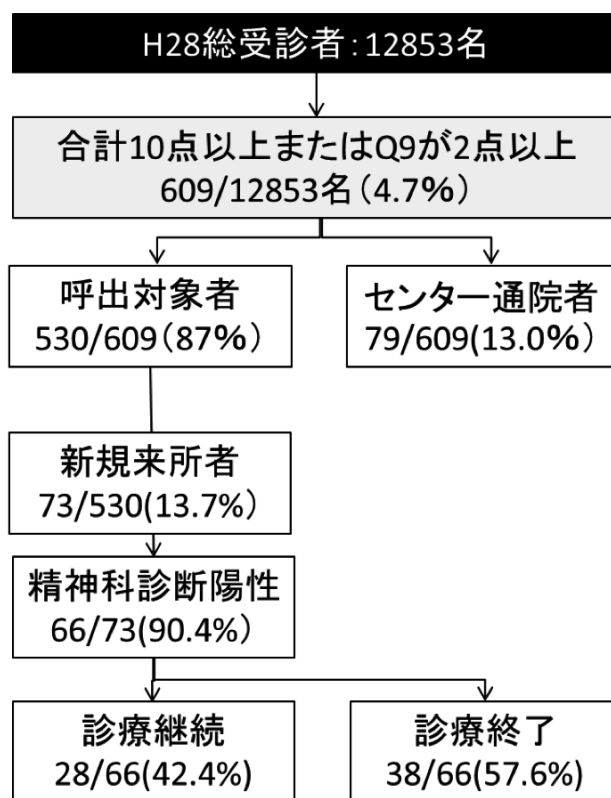
iii) 精神衛生相談利用者の年次推移（延数と実数）



iv) 学生こころの状態スクリーニング

学生のこころの不調の早期発見を目的に、例年通り、「こころの状態スクリーニング」を実施した。まず一次スクリーニングとして、2016年4月学生健康診断の際、受診票に設けた「こころの状態チェックリスト」として、今年度からはPHQ-9による質問欄を設け、チェックした項目や数が該当基準を満たすケースを、「こころの不調の疑いあり」とした。次に、該当ケースとなった対象学生を呼び出し、来所者には二次スクリーニングとして保健管理センター精神科医師が診断面接を行った。なお、10月に入学した留学生健診者に一次スクリーニングは行ったが、本年度は呼び出しはしていない。

結果は図の通りである。



図：健診別スクリーニング結果のシェーマ

PHQ-9はうつ病のスクリーニング尺度として国際的に標準化されている。呼び出し対象者数は昨年度に比して増加傾向であり、4月分は100名程度増加していた。面接に新規に来所した学生数は、H27年度が49名、H28年度が73名と増加した。新規に来所し診断がつくケースの半数程度は、診療継続に至った。精神科診断の陽性率は上昇しており、スクリーニングの効率は上昇していると思われた。全体的に、スクリーニングで見出されたこころの不調が疑われる学生は昨年度より増加していた。

10. そ の 他

1) 予防接種者

i) B型肝炎ワクチン接種

対 象	接 種 数
医 学 類	382
看 護 学 類	215
医 療 科 学 類	108
計	705

注：B型肝炎ワクチン接種は、1～3回目の延数である。

ii) インフルエンザワクチン接種

対 象	接 種 数
医 学 類	222
看 護 学 類	145
医 療 科 学 類	37
計	404

注：インフルエンザワクチン接種は、医学群の学生で、実習上接種の必要な希望者に実施した。

2) HBs抗原抗体検査

対 象	HBs抗原検査			HBs抗体検査		
	陽性	陰性	計	陽性	陰性	計
理療科教員養成施設学生	0	48	48	25	23	48
職 員	0	27	27	17	10	27
計	0	75	75	42	33	75

3) 臨床検査実施数

月	血 液	尿	心 電 図	合 計
平成28年 4 月	10	4	4	18
5 月	44	126	13	183
6 月	19	34	19	72
7 月	10	7	21	38
8 月	7	5	2	14
9 月	6	3	2	11
10月	7	7	5	19
11月	4	17	2	23
12月	5	15	5	25
平成29年 1 月	4	9	3	16
2 月	9	17	4	30
3 月	8	12	8	28
合 計	133	256	88	477

4) エックス線写真撮影件数及び枚数

区分	学		生				職 員						合 計	
	一般撮影		デンタル		計		胸 部 その他		デンタル		計			
月	件数	枚数	件数	枚数	件数	枚数	件数	枚数	件数	枚数	件数	枚数	件数	枚数
4	36	1	7	10	43	11	1	0	0	0	1	0	44	11
5	95	7	40	67	135	74	2	0	0	0	2	0	137	74
6	102	10	25	36	127	46	0	0	0	0	0	0	127	46
7	118	6	27	52	145	58	2	0	0	0	2	0	147	58
8	58	8	17	32	75	40	1	0	0	0	1	0	76	40
9	92	4	33	56	125	60	2	0	0	0	2	0	127	60
10	110	4	14	18	124	22	1	0	0	0	1	0	125	22
11	68	2	12	20	80	22	3	0	0	0	3	0	83	22
12	97	7	25	35	122	42	3	0	0	0	3	0	125	42
1	78	3	18	26	96	29	2	0	0	0	2	0	98	29
2	71	6	26	34	97	40	4	0	0	0	4	0	101	40
3	83	6	29	43	112	49	4	0	0	0	4	0	116	49
合計	1,008	64	273	429	1,281	493	25	0	0	0	25	0	1,306	493
学生定期健康診断撮影 12,162 名														
職員定期健康診断撮影 5,819 名														

5) 処方箋発行数

	処方箋 (枚)
平成28年 4 月	377
5 月	624
6 月	563
7 月	550
8 月	378
9 月	415
10月	693
11月	504
12月	621
平成29年 1 月	556
2 月	503
3 月	447
合 計	6,231

6) 外部診療機関紹介状況

区分 \ 科分類	内科	整形外科	歯科	耳鼻科	眼科	婦人科	皮膚科	泌尿器科	救急外来	その他	合計
人文・文化学群生	10	1	5							3	19
社会・国際学群生	11	6	3				1		1	7	29
人間学群生	7	1								1	9
生命環境学群生	11	3	7	1			1	1	2	6	32
理工学群生	33	7	6				2	1	2	11	62
情報学群生	7	2	5						1	4	19
医学群生	20	7	3	1			1			9	41
体育専門学群生	26	20	3	1	1				1	28	80
芸術専門学群生	10	3							1		14
学群生小計	135	50	32	3	1	0	5	2	8	69	305
大学院生	54	11	33	5		4	7	3	2	20	139
研究生	14	3	16	1		1	4		1	6	46
大学院生など小計	68	14	49	6	0	5	11	3	3	26	185
職員・その他	14	3						2	1	3	23
合計	217	67	81	9	1	5	16	7	12	98	513

注) その他とは、本学校内における公開講座、合宿の参加者、見学者などである。

7) 健康診断証明書等発行数

	センター発行	自動証明書発行 装 置 発 行	合 計
学 群 生	1,014	5,515	6,529
大 学 院 生	193	6,295	6,488
研 究 生	87		87
職 員	76		76
そ の 他	3		3
合 計	1,373	11,810	13,183

自動証明発行装置は、定型の書式で、学群生・大学院生のみ発行。

センター発行は、定型外および、再検査中など、一部、自動発行不可の者など。

その他は、学振・特別研究員等である。

8) 救護活動

No.	実施期間	行事等名称	救護班設置場所	利用者数
1	平成28年 4月7日	入学式	保健管理センター	1
2	5月14・15日	春季スポーツデー	保健管理センター	4
3	7月5・6日	大学院推薦入試（7月期）	保健管理センター	0
5	7月16・17日	帰国生徒特別入試・学群編入学試験	保健管理センター	0
6	8月6・7・11日	大学説明会	保健管理センター・ 春日キャンパス救護室	5
8	8月23～30日	大学院博士課程入試（8月期）	保健管理センター	0
9	8月30・31日	ヒューマンバイオロジー学位 プログラム8月期入試	保健管理センター	0
10	8月20日～2月5日	東京キャンパス大学院入試	東京キャンパス救護室	2
11	10月3日～17日	学群AC入試・国際科学オリンピック 特別入試 国際バカロレア特別入試	保健管理センター	0
12	10月13日～21日	大学院博士課程入試（10月期）	保健管理センター	0
13	10月28日	エンパワーメント情報学プログラム 10月期入試	保健管理センター	0
14	11月4日～11月6日	学園祭	保健管理センター	3
15	11月12・13日	秋季スポーツデー	保健管理センター	2
16	11月30日～12月1日	推薦入学試験	各入試会場救護室	1
17	平成29年 1月18・19日	大学センター入試	各入試会場救護室	10
18	1月31日～2月3日	大学院入試（2月期）	保健管理センター	0
19	2月25・26日	大学学力試験（前期日程） 学群編入学試験（2月）	各入試会場救護室	18
20	3月12日	大学学力試験（後期日程）	各入試会場救護室	2
21	3月24日	卒業式	保健管理センター	0
計				48

9) 救急箱貸出数

	救急箱 (個)
平成28年 4 月	13
5 月	18
6 月	0
7 月	4
8 月	8
9 月	2
10月	0
11 月	32
12月	0
平成29年 1 月	9
2 月	8
3 月	10
合 計	104

10) 栄養指導件数

疾患名 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
糖 尿 病													0
貧 血 症			2	17	2								21
脂 肪 異 常 症													0
高 尿 酸 血 症													0
高 血 圧													0
肥 満				2		2							4
脂 肪 肝													0
そ の 他		1	1	1	1		1	1			1		7
合 計	0	1	3	20	3	2	1	1	0	0	1	0	32

11. 学 内 広 報 ・ 研 修 活 動

1) 広報活動

“STUDENTS” —保健管理センターだより—

No.668 (平成28年4月7日発行)

保健管理センターの利用案内

太刀川 弘和

No.669 (平成28年6月16日発行)

ついうっかり、集中困難

石井 映美

No.671 (平成28年10月13日発行)

もう一歩前に出て、人とかかわってみませんか

杉江 征

No.672 (平成29年1月19日発行)

困難な状況で育ったあなたへ：レジリエンスとは

田附 あえか

“STUDENTS” —2016安全特集・秋号—

No.670 (平成28年10月3日発行)

こころのケア

学生相談室

『紫峰の風』 —学生相談室から—

創刊号 (平成28年7月発行)

上手な睡眠のとり方

白鳥 裕貴

第2号 (平成28年12月発行)

うどんに学ぶ異文化体験

田中 崇恵

第3号 (平成28年2月発行)

授業・研究室に行けない

田附 あえか

2) 研修活動

(1) キャンパスライフセミナー

第1回 自分らしいメイクアップを学ぼう～専門家によるビューティ講座

1. 対 象 筑波大生
2. 期 日 平成28年12月7日（水）13：45～15：15
3. 場 所 大学会館マルチメディアルーム
4. 参加人数 21名
5. 担 当 田附あえか
6. 内 容 専門家から直接アドバイスを受けながら、自分らしさを最大限に活かせるメイクアップを学ぶことで、自分の身体や個性に向き合い、より自信をもって人と接することができるようになることをめざした講座を開催した。定員を超える応募があり、盛況のうちに終了し、参加者の満足度も非常に高かった。

(2) 学群教育改革推進事業「筑波大学におけるピア・サポーター制度の導入について」の活動

①ピア・サポーター制度導入の先進校への視察

・北海道大学への視察

1. 期 日 平成28年9月20日（火）
2. 場 所 北海道大学
3. 担 当 杉江征・田中崇恵（学生生活課より金井浩紫課長・高木栄主幹）
4. 内 容 北海道大学で行われているピア・サポート活動について視察を行った。学部に属さない1年次を主な対象とし、フリースペースの運営と相談の振り分け活動を行っていた。大きな特徴として、北海道大学の入試改革（総合入試制度）のセーフティーネットとして導入されているという経緯があった。

・名古屋大学・岐阜大学への視察

1. 期 日 平成28年12月19日（火）～20日（火）
2. 場 所 名古屋大学・岐阜大学
3. 担 当 杉江征・田中崇恵・田附あえか（学生生活課より金井浩紫課長・高木栄主幹）
4. 内 容 名古屋大学でのピア・サポート活動は全額の学生を対象としており、図書館のスペースを利用して相談活動を行っていた。小規模ではあるが、学生の身の丈にあう工夫された活動内容であった。
岐阜大学では、養成プログラムが主体であり、教育活動の一環という色合いが強かった。養成プログラムを授業として実施することにより、多くの学生が研修を受けられる機会を提供していた。

・東京大学への視察

1. 期 日 平成29年2月17日（金）
2. 場 所 東京大学
3. 担 当 杉江征・田中崇恵・田附あえか
4. 内 容 ぴあのわ2017への参加を兼ねて訪問した。東京大学のピア・サポート活動は、組織的で大規模な活動であり、専任の教員3名が常駐していた。相談窓口の開設、イベントや広報活動、メルマガなどの啓発活動など各組織に分かれて運営されていた。また、ピア・サポーター養成方法も工夫されていた。

②ぴあのわ2017（全国大学ピアサポーター合同研修会）への参加

1. 対 象 全国大学ピアサポーター合同研修会への参加者（筑波大学より有志の学生が参加）
2. 期 日 平成29年2月17（金）～18日（土）
3. 場 所 東京大学
4. 参加人数 筑波大学より10名
5. 担 当 杉江征・田中崇恵・田附あえか
6. 内 容 他大学でのピア・サポート活動の実践についての発表を聞くとともに、意見交流を行い筑波大学での実践についての知見を収集した。また、UC San Diego校のReina. Juarez博士の講演を聞き、「ピア・エデュケーター」活動についての知見・実践例を得ることができた。

③筑波大のピアサポートについて考える会（T-act承認企画「みんなで幸せになろう筑波支部～ピアサポート制度を立ち上げよう！～」共催企画）

1. 対 象 筑波大生
2. 期 日 平成29年2月22日（水）13：00～17：00
3. 場 所 人間系学系棟B301
4. 参加人数 21名
5. 担 当 杉江征・田中崇恵・田附あえか・坂本憲治
6. 内 容 本学へのピア・サポート制度の導入を開始していくため、どのような活動を展開していくか講演やワークを通して考える研修会を開催した。すでに実践的なピア・サポート活動を行っている東京大学学生相談ネットワーク本部ピアサポートルーム・植田峰悠特任助教、皇學館大學文学部・川島一明助教を講師として招き、講演をいただいた。

(3) フレッシュマンセミナーへの出講

総合科目Ⅰ「フレッシュマンセミナー」への出講依頼があった学類・クラスに対し、学生相談室の教員が学生のメンタルヘルスや学内相談機関の利用の仕方などについて出講授業を行っている。平成28年度の実施日時と担当者は以下の通りであった。

実施日時	担当学類・クラス	担当教員
4月27日（水）12：15～13：30	工学システム学類（1～3クラス）	杉江 征
5月6日（金）8：45～10：00	人間学群（3学類合同）	中岡 千幸
5月9日（月）13：45～15：00	人文・文化学群（3学類合同）	中岡 千幸
5月11日（水）13：45～15：00	生物資源学類	坂本 憲治
5月23日（月）15：15～16：30	工学システム学類（4～6クラス）	中岡 千幸
5月25日（水）12：15～13：30	知識情報・図書館学類	坂本 憲治
6月1日（水）13：45～15：00	生物学類	杉江 征
6月17日（金）15：15～16：30	芸術専門学群	坂本 憲治

※なお、今年度は例年行っているエンカウンター合宿については、スタッフの人事異動等のため開催を中止した。

(4) 医療安全管理教育研修

第1回 診療の安全に関する研修【連携・協力・社会貢献】

1. 対 象 筑波大学附属病院職員等
2. 期 日 平成28年11～12月（DVD複数回開催）
3. 場 所 保健管理センター 会議室
4. 参加人数 25名
5. 担 当 附属病院臨床医療管理部 外
6. 内 容
 - ・医療事故防止に関する基本的事項
 - ・他大学の事例を受けて、ガバナンスの強化
 - ・薬剤有害事象の報告
 - ・中心静脈カテーテル接続部の脱着時に発生した空気塞栓
 - ・鎮静管理指導医制度の運用開始
 - ・感染経路別予防策

12. 研 究 業 績

<原著論文>

1. Fu R, Noguchi H, Tachikawa H, Aiba M, Nakamine S, Kawamura A, Takahashi H, Tamiya N.: Relation between social network and psychological distress among middle-aged adults in Japan: Evidence from a national longitudinal survey. *Social Science and Medicine* 175: 58-65, 2016.
2. Doki K, Sekiguchi Y, Kuga K, Aonuma K, Homma M: β 1-Adrenergic receptor Arg389Gly polymorphism affects the antiarrhythmic efficacy of flecainide in patients with coadministration of β -blockers. *Pharmacogenet Genomics* 26 (10): 481-485, 2016
3. Tsuneoka H, Takagi M, Murakoshi N, Yamagishi K, Yokoyama Y, Xu D, Sekiguchi Y, Yamasaki H, Naruse Y, Ito Y, Igarashi M, Kitamura A, Okada T, Tanigawa T, Kuga K, Ohira T, Tada H, Aonuma K, Iso H: Long-Term Prognosis of Brugada-Type ECG and ECG With Atypical ST-Segment Elevation in the Right Precordial Leads Over 20 Years: Results From the Circulatory Risk in Communities Study (CIRCS). *J Am Heart Assoc* 5 (8) (pii: e002899. doi: 10.1161/JAHA.115.002899), 2016
4. Yatagai Y, Hirota T, Sakamoto T, Yamada H, Masuko H, Kaneko Y, Iijima H, Naito T, Noguchi E, Tamari M, Kubo M, Takahashi A, Konno S, Makita H, Nishimura M, Hijikata M, Keicho N, Homma S, Taguchi Y, Azuma A, Kudoh S, Hizawa N: Variants near the HLA complex group 22 gene (HCG22) confer increased susceptibility to late-onset asthma in Japanese populations. *J Allergy Clin Immunol* 138 (1):281-283.e13, 2016 (DOI: 10.1016/j.jaci.2015.11.023)
5. Lin SY, Matsuno Y, Yokosawa M, Suzuki T, Morishima Y, Sakamoto T, Sumida T, Hizawa N: Analysis of scrub typhus involvement of the lung by bronchoalveolar lavage: A case report. *Respir Investig* 54 (6): 487-489, 2016 (DOI: 10.1016/j.resinv.2016.06.004)
6. Kanazawa J, Masuko H, Yatagai Y, Sakamoto T, Yamada H, Kaneko Y, Kitazawa H, Iijima H, Naito T, Saito T, Noguchi E, Konno S, Nishimura M, Hirota T, Tamari M, Hizawa N: Genetic association of the functional CDHR3 genotype with early-onset adult asthma in Japanese populations. *Allergol Int* pii: S1323-8930 (17) 30016-3, 2017 (DOI: 10.1016/j.alit.2017.02.012)
7. Fujii K, Abe T, Kubota S, Marushima A, Kawamoto H, Ueno T, Matsushita A, Nakai K, Saotome K, Kadone H, Endo A, Haginoya A, Hada Y, Matsumura A, Sankai Y, Yamazaki M. The voluntary driven exoskeleton Hybrid Assistive Limb (HAL) for postoperative training of thoracic ossification of the posterior longitudinal ligament: a case report. *J Spinal Cord Med*. Feb 9:1-7, 2016
8. Kubota S, Abe T, Fujii K, Marushima A, Ueno T, Haginoya A, Endo A, Kadone H, Kawamoto H, Shimizu Y, Hada Y, Matsumura A, Sankai Y, Yamazaki M. Improvement of walking ability using Hybrid Assistive Limb training in a patient with severe thoracic myelopathy caused by ossification of the posterior longitudinal ligament. A case report. *J Spine* S7: 003, 2016
9. Funayama T, Gasbarrini A, Ghermandi R, Girolami M, Boriani S: Solitary bone cyst of a lumbar vertebra treated with percutaneous steroid injection: a case report and review of literature. *Eur Spine J* 26 (suppl 1): 58-62, 2016

10. 遠藤 剛, 太刀川弘和, 相羽 美幸, 白鳥 裕貴, 森田 展彰, 朝田 隆: 地域ネットワーク強化を意識した自殺対策研究「笠間を元気にするネットワーク作り」について. 日本社会精神医学雑誌 25: 221-230, 2016
11. 山田英恵, 増子裕典, 乾 年秀, 金澤 潤, 谷田貝洋平, 坂本 透, 飯島弘晃, 今野 哲, 清水薫子, 牧田比呂仁, 西村正治, 國分二三男, 齋藤武文, 遠藤健夫, 二宮浩樹, 金子教宏, 檜澤伸之: 喘息患者におけるサルメテロールとモンテルカストの有用性の差に影響するロイコトリエン関連遺伝子因子の検討. アレルギー 65 (9):1201-1208, 2016 (DOI: 10.15036/arerugi.65.1201)
12. 久保田茂希, 安部哲哉, 藤井賢吾, 中山敬太, 三浦紘世, 山崎正志. 重度脊髄症を呈する胸椎後縦靱帯骨化症に対するロボットスーツHALを用いたリハビリテーション. 日本脊髄障害医学会誌 9: 38-39, 2016
13. 久保田茂希, 安部哲哉, 藤井賢吾, 門根秀樹, 丸島愛樹, 松村 明, 清水如代, 羽田康司, 山崎正志. 圧迫性脊髄症の術後急性期および慢性期におけるロボットスーツHALを用いた機能回復治療—医師主導型自主臨床試験. 脊椎脊髄ジャーナル 29: 715-722, 2016
14. 菊池直哉, 安部哲哉, 長島克弥, 三浦紘世, 河野衛, 山崎正志. 経腸骨アプローチを用いた経皮的内視鏡下腰椎椎間板ヘルニア摘出術の手術成績. 整形災害外科 59:1659-1662, 2016
15. 船山 徹, 塚西敏則: 胸腰椎経皮的椎弓根スクリュー固定法における臨床経験年数による挿入精度の違い. 整形外科 67 (7): 607-611, 2016
16. 船山 徹, 椎名逸雄, 塚西敏則: 骨粗鬆症性椎体骨折に対する椎体不安定性評価に基づいた最適な安静期間の確立・および経皮的椎体形成術における隣接椎体骨折予防に関する研究. 共済エグザミナー通信 39 (8): 19-26, 2016
17. 田附あえか・大塚斉: 児童養護施設で暮らす子どもと親のきずなをつむぐ9年間の援助過程: 子ども虐待が生じた家族とリジリアンス. 家族療法学研究 33 (3): 263-268, 2016
18. 田附あえか: 子ども虐待によるトラウマにアプローチする時機をどう判断するか. 臨床心理学 17 (2) (通巻98): 204-206, 2017.
19. 大町知久・大西真美・大塚斉・田附あえか: カップルセラピーのプロセス研究—初回面接での参加者の体験に関する実証的研究—. 家族心理学研究 30 (2): 1-16, 2017.
20. 中岡千幸, 中島正雄, 長友周悟, 小島奈々恵, 松川春樹, 佐 藤静香, 佐々木真理, 吉武清實, 池田忠義: 東北大学における休学生の現状. 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要 3:329-336, 2017
21. 坂本憲治, 本多千賀子, 永山由貴, 木内理恵, 成田奈緒子: 専任カウンセラー不在の学生相談室の問題—開設33年目のX大学学生相談室における後向調査から—. 人間生活文化研究, 26: 595-609, 2016
22. 畑中千紘, 田中 崇恵, 加藤のぞみ, 小木曾由佳, 井芹聖文, 神代末人, 土井奈緒美, 長谷川千紘, 高嶋雄介, 皆本麻実, 河合俊雄, 田中康裕: 発達障害へのプレイセラピーにおける保護者面接の意義と可能性. 箱庭療法学研究, 29 (2): 17-28, 201
23. 川崎隆, 古川真由美, 田中崇恵, 江上奈美子, 慶野遥香, 高野明: 学生相談活動における評価方法に関する研究の概観—授業, グループ活動, ピア・サポート, コンサルテーションに着目

して―. 学生相談研究, 36 (3) : 197-208, 2016

24. 江上奈美子, 川崎隆, 古川真由美, 田中崇恵, 慶野遥香, 藤岡勲, 高野明: 学生相談活動の効果測定導入に対するカウンセラーの意識. 学生相談研究, 37 (2) : 94-107, 2016
25. 田中崇恵: イメージについての小論―アート・妖怪・夢. 東京大学学生相談所紀要, 24 : 23-26, 2016

＜総説・その他＞

1. 太刀川 弘和: 保健管理センターだより 「保健管理センター利用案内」. つくばスチューデント 2016年4月号: 16-16, 2016.
2. 太刀川 弘和: シンポジウム「自殺予防のための社会的取り組み」から, 自殺を減らすことは可能か? 社会新報 2016年6月号: 2016.
3. 太刀川 弘和: 子どもの自死を減らす「予防教育」, AERA 2016年9月19日号: 2016.
4. 太刀川 弘和: ほけかんの先生だけど質問ある? 希死回生編, Re+ 学生生活で悩んだ時に読む本 @筑波大学, pp12-13: 2016.
5. 久賀圭祐: 特集＜保健管理業務のIT化＞大学保健管理におけるIT化について. CAMPUS HEALTH 53 (2):3-8, 2016
6. 安達 亨, 町野 毅, 油井慶晃, 小松雄樹, 村越伸行, 山上 文, 篠田康俊, 服部 愛, 蔡 榮鴻, 増田慶太, 黒木健志, 山崎 浩, 関口幸夫, 久賀圭祐, 野上昭彦, 青沼和隆: ラミン心筋症に伴う多様な不整脈に対して集約的治療を要した症例. Progress in Medicine 36 (suppl.2): 1731-1735, 2016
7. 住友直方, 石川広己, 泉田直己, 市田露子, 岩本眞理, 笠巻祐二, 久賀圭祐, 土井庄三郎, 中西敏雄, 馬場礼三, 檜垣高史, 堀米仁志, 三谷義英, 武者春樹, 吉永正夫, 阿部勝己, 鮎沢 衛, 牛ノ濱大也, 太田邦雄, 加藤愛章, 加藤太一, 澤田博文, 鉾碕竜範, 葭葉茂樹, 新 博次, 小川俊一, 奥村 謙, 筒井裕之, 長嶋正實, 丹羽公一郎, 平山篤志, 堀江 稔, 日本循環器学会, 日本小児循環器学会, 一般社団法人日本循環器学会ガイドライン委員会: 循環器ガイドラインシリーズ2016年度版 学校心臓検診のガイドライン (日本循環器学会/日本小児循環器学会合同ガイドライン). 循環器病ガイドシリーズ 2016: 1-80, 2016
8. 住友直方, 石川広己, 泉田直己, 市川露子, 岩本眞理, 笠巻祐二, 久賀圭祐, 土井庄三郎, 中西敏雄, 馬場礼三, 檜垣高史, 堀米仁志, 三谷義英, 武者春樹, 吉永正夫, 阿部勝己, 鮎沢 衛, 牛ノ濱大也, 太田邦雄, 加藤愛章, 加藤太一, 澤田博文, 鉾碕竜範, 葭葉茂樹, 新 博次, 小川俊一, 奥村 謙, 筒井裕之, 長嶋正實, 丹羽公一郎, 平山篤志, 堀江 稔, 日本循環器学会, 日本小児循環器学会日本小児循環器学会合同ガイドライン【ダイジェスト版】2016年版 学校心臓検診のガイドライン. 循環器病ガイドシリーズ 2016: 81-148, 2016
9. 船山 徹: 骨粗鬆症性椎体骨折に対する新しい手術 (BKP) について. IBS 茨城放送「JA さわやかモーニング」 2月16日放送, 2016
10. 船山 徹: 骨粗鬆症性椎体骨折に対する新しい手術 (BKP) について. 茨城県厚生連ホームページ「やさしい医学解説」 2月, 2016

11. 石井映美：つくばスチューデントズ. ついうっかり, 集中困難. 保健管理センターだより, つくばスチューデントズ2016年夏号, 10, 2016.
12. 田附あえか：学生相談室から「授業・研究室に行けない」. 紫峰の風3：1-1, 2016

<著書>

1. 太刀川弘和：Ⅶ 抗認知症薬および脳循環・代謝改善薬（シチコリン）；精神科のくすりハンドブック第2版. 樋口輝彦監修. 総合医学社（東京）, 334-335, 2016
2. 田村 昌士, 太刀川弘和：精神科救急－統合失調症；今日の精神疾患治療指針第2版. 樋口輝彦／市川宏伸／神庭重信／朝田隆／中込和幸監修. 医学書院（東京）, 835-838, 2016
3. 太刀川弘和：精神科救急－自殺企図への精神科的対応；今日の精神疾患治療指針第2版. 樋口輝彦／市川宏伸／神庭重信／朝田隆／中込和幸監修. 医学書院（東京）, 870-873, 2016
4. 白鳥 裕貴：精神科医の戦略&戦術ノート. 星和書店, 東京, 2017
5. 石井映美：Ⅶ 抗認知症薬および脳循環・代謝改善薬（ジヒドロエルゴトキシンメシル酸塩）；精神科のくすりハンドブック第2版. 樋口輝彦監修. 総合医学社（東京）, 336-337, 4月, 2016
6. 石井映美, 水上勝義：14. 薬剤性精神障害と他の症状性精神障害（抗結核薬による精神症状）；今日の精神疾患治療指針第2版. 樋口輝彦／市川宏伸／神庭重信／朝田隆／中込和幸監修. 医学書院（東京）, 500-503, 10月, 2016

<報告書>

1. 太刀川弘和, 川島義高, 小田原俊成, 衛藤暢明, 河西千秋, 山田光彦：大学生を対象とした国内外の自殺予防研究に関する系統的レビュー. CUMPUS HEALTH 54 (1); 342-342, 2017
2. 太刀川弘和, 高橋晶, 袖山紀子, 相羽美幸, 高木善史：被災関連自殺ハイリスク者の実態とこころのケアのニーズ調査. 平成27年度茨城県地域自殺対策モデル研究事業 受託研究報告書, 2016
3. 田宮菜奈子, 太刀川弘和, 高橋 晶, 相羽美幸, 仲嶺真：中高年者の精神的健康に関連する社会環境要因の検討. 厚生労働省科学研究費補助金政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業）地域包括ケア実現のためのヘルスサービスリサーチ-二次データ活用システム構築による多角的エビデンス創出拠点 - 平成27年度総括・分担研究報告書, pp14-15, 2016.
4. 坂本 透 前向きコホートによる喘息とCOPD発症に対する危険因子の包括的解析. 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）(25461147) 報告書, 2016
5. 安部哲哉. 重度歩行障害を呈する胸椎後縦靱帯骨化症の術後および頸椎後縦靱帯骨化症に伴う頸椎症術後に発生したC5麻痺に対するロボットスーツHALを用いたリハビリテーション. 労災疾病臨床研究事業費補助金 分担研究報告書 pp66-73, 2015年3月
6. 石井映美, 太刀川弘和, 白鳥裕貴, 佐々木恵美, 久賀圭祐, 新井哲明：精神科通院学生の学業転帰について－より合理的な支援のために－. CUMPUS HEALTH 54 (1); 358-359, 2017

<学会発表>

1. Okamoto Y, Tachikawa H, Nemoto K, Ikeda Y, Sodeyama N, Arai T: Developing a Twitter crawler to collect suicide information. 7th Asia Pacific Regional Conference of the International Association for Suicide Prevention, Tokyo, May 18-21, 2016
2. Aiba M, Tachikawa H, Arai T: The relations between social capital and suicidal ideation in Japan. 7th Asia Pacific Regional Conference of the International Association for Suicide Prevention, Tokyo, May 18-21, 2016
3. Kuroki K, NOgami A, Igarashi M, Komatsu Y, Kowase S, Kurosaki K, Sai E, Shonoda Y, Ota C, Yamagami F, Aita S, Hasegawa T, Masuda K, Machino T, Xu D, Yamasaki H, Murakoshi N, Sekiguchi Y, Kuga K, Aonuma K: The feasibility of detection true critical isthmus sites of ventricular tachycardia by utilizing fast-fourier transform analysis with voltage limit adjustment. Heart Rhythm 2016 (San Francisco, USA), 5月, 2016
4. Nakaoka C : The influence of interpersonal stressors in extracurricular activities on mental health: the role of expressing emotions for university students with high over-adaption tendencies. The 31st International Congress of Psychology (Yokohama), July, 2016
5. Aiba M., Nakamine S, Tachikawa H, Takahashi S, Tamiya N : Development of social capital index from national longitudinal survey. The 4th International Conference of Global Aging Tsukuba, Tsukuba Global Science Week 2016, Tsukuba, Sep, 2016.
6. Nakamine S, Aiba M, Tachikawa H, Takahashi S, Tamiya N : How social capital affects depressive state of middle-aged adults? The 4th International Conference of Global Aging Tsukuba, Tsukuba Global Science Week 2016, Tsukuba, Sep, 2016.
7. 藤田純一, 川口未央, 中嶋真之, 太田恭子, 國分二三男, 松倉 聡, 中澤健介, 塩澤利博, 増子裕典, 際本拓未, 松野洋輔, 森島祐子, 佐藤浩昭, 坂本 透, 檜澤伸之: 気道平滑筋細胞における IL-17F による IL-8 の発現機構. 第56回日本呼吸器学会学術講演会(京都), 4月, 2016
8. 林 士元, 松野洋輔, 角田義弥, 櫻井啓文, 際本拓未, 森島祐子, 石井幸雄, 坂本 透, 檜澤伸之: 肺気腫形成における転写因子 T-bet の役割の検討. 第56回日本呼吸器学会学術講演会(京都), 4月, 2016
9. 金子剛, 松井裕史, 兵頭一之介: 消化管洗浄液を用いた大腸癌スクリーニング方法. 第102回日本消化器病学会総会(東京) 4月, 2016年
10. 後頭骨-頸椎固定術における嚥下障害, 呼吸障害予防のための, 術中固定位の工夫中山敬太, 安部哲哉, 三浦紘世, 長島克弥, 藤井賢吾, 山崎正志 第45回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 2016年4月, 千葉
11. 本邦における頸椎外傷の統計解析-外傷データベースを用いて- 中山敬太, 西野衆文, 藤井賢吾, 安部哲哉, 山崎正志 第45回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 2016年4月, 千葉
12. 胸椎後方固定手術における椎弓根スクリューの疾患による精度の違い 三浦紘世, 安部哲哉, 長島克弥, 中山敬太, 藤井賢吾, 山崎正志 第45回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 2016年4月, 千葉

13. 骨粗鬆症性椎体骨折の初期入院安静を含む保存治療の臨床成績 柴尾洋介, 安部哲哉, 竹内陽介, 酒井晋介, 坂根正孝, 山崎正志 第45回日本脊椎脊髓病学会学術集会, 2016年4月, 千葉
14. 両開き式椎弓拡大形成術における配向連通孔性HA多孔体椎弓スパーサーの骨癒合と転位及び吸収の関連性に関する検討 野口裕史, 坂根正孝, 狩野真士, 船山徹, 安部哲哉, 河村春生, 日置繁, 牧原武史, 塚西敏則, 山崎正志 第45回日本脊椎脊髓病学会学術集会, 2016年4月, 千葉
15. 化膿性脊椎炎に対する経皮的内視鏡下椎間板切除(PED)の治療成績 河野衛, 安部哲哉, 長島克弥, 三浦紘世, 中山敬太, 藤井賢吾, 船山徹, 竹内陽介, 坂根正孝, 山崎正志 第45回日本脊椎脊髓病学会学術集会, 2016年4月, 千葉
16. K-line (-) 型頸椎OPLLに対する後方除圧固定術の適応と成績 山崎正志, 安部哲哉, 國府田正雄, 藤由崇之, 古矢丈雄, 大田光俊, 牧聡, 飯島靖, 斎藤淳哉, 望月真人, 小西宏昭 第45回日本脊椎脊髓病学会学術集会, 2016年4月, 千葉
17. 船山 徹, 伊澤成郎, 塚西敏則: 立位-仰臥位単純X線側面動態撮影による骨粗鬆症性椎体骨折の保存治療抵抗性評価. 第45回日本脊椎脊髓病学会(幕張), 4月, 2016
18. 船山 徹, 伊澤成郎, 塚西敏則: 頸椎症性脊髄症における頸椎アライメントの違いによる動的脊髄圧迫の定量的評価. 第45回日本脊椎脊髓病学会(幕張), 4月, 2016
19. 石井映美, 太刀川弘和, 白鳥裕貴, 新井哲明: 発達障害学生の精神科診療における特徴—自験例の診療録から他の精神疾患と比較して—. 第38回全国大学メンタルヘルス学会総会, 東京, 4月, 2016
20. 袖山紀子, 太刀川弘和, 高橋晶, 相羽美幸, 新井哲明, 高橋祥友: 茨城県における東日本大震災後5年間の精神科受診患者の動向. 第40回日本自殺予防学会総会(東京) 5月, 2016
21. 翠川 晴彦, 太刀川弘和, 遠藤剛, 森田展彰, 根本清貴, 新井哲明: 精神的な健康度が自殺に対する態度に及ぼす影響-ゲートキーパー研修のアンケート調査から-. 第40回日本自殺予防学会総会(東京) 5月, 2016
22. 會田有香, 藤田一喬, 際本拓未, 石川宏明, 渡辺裕子, 塩澤利博, 中澤健介, 増子裕典, 小川良子, 松野洋輔, 川口未央, 森島祐子, 坂本 透, 人見重美, 檜澤伸之: 35年以上気管支拡張症を有する女性に *Pasteurella multocida* が感染した1例. 第219回日本呼吸器学会関東地方会(東京), 5月, 2016
23. 化膿性脊椎炎に対する経皮的内視鏡下椎間板切除(PED)の効果 安部哲哉, 河野衛, 坂根正孝, 長島克弥, 三浦紘世, 藤井賢吾, 中山敬太, 山崎正志 第89回日本整形外科学会学術総会, 2016年5月, 横浜
24. 本邦における頸椎外傷の統計解析-外傷データベースを用いて- 中山敬太, 西野衆文, 藤井賢吾, 安部哲哉, 山崎正志 第89回日本整形外科学会学術総会, 2016年5月, 横浜
25. 椎骨動脈の走行異常を伴う環軸椎亜脱臼に対する一手術例 濱田和希, 船山徹, 安部哲哉, 熊谷洋, 三浦紘世, 藤井賢吾, 野口裕史, 山崎正志 第121回茨城県整形外科集談会, 2016年5月, つくば
26. 船山 徹, 伊澤成郎, 塚西敏則: 頸椎症性脊髄症における頸椎アライメントの違いによる動的脊髄圧迫の定量的評価. 第89回日本整形外科学会(横浜), 5月, 2016

27. 船山 徹, 伊澤成郎, 塚西敏則: 立位-仰臥位単純X線側面動態撮影による骨粗鬆症性椎体骨折の保存治療抵抗性評価. 第89回日本整形外科学会(横浜), 5月, 2016
28. 高橋晶, 太刀川弘和, 今村芳博, 石川正憲, 根本清貴, 南場陽一, 塚田恵鯉子, 石川和宏, 河合伸念, 堀孝文, 新井哲明, 高橋祥友: 平成27年関東・東北豪雨における常総市水害支援(1) 茨城県こころのケアチームの急性期活動. 第112回日本精神神経学会学術総会(幕張) 6月, 2016.
29. 太刀川弘和, 根本清貴, 高橋晶, 坂本昭裕, 石橋直子, 杉江征, 堀孝文, 新井哲明: 平成27年関東・東北豪雨における常総市水害支援(2) 常総市こころの相談活動: 中長期支援に向けて. 第112回日本精神神経学会学術総会(幕張) 6月, 2016.
30. 新井哲明, 安部秀三, 岡田正樹, 須磨崎加寿子, 高濱浩輔, 田中芳郎, 山田武, 高橋晶, 根本清貴, 太刀川弘和, 河合伸念, 東晋二, 塚田恵鯉子, 江湖山さおり, 堀孝文: 平成27年関東・東北豪雨における常総市水害支援(3) 茨城県認知症疾患医療センターの訪問活動. 第112回日本精神神経学会学術総会(幕張) 6月, 2016.
31. 會田有香, 藤田一喬, 望月芙美, 石川宏明, 北沢晴奈, 渡辺裕子, 中澤健介, 塩澤利博, 増子裕典, 小川良子, 際本拓未, 松野洋輔, 川口未央, 森島祐子, 坂本 透, 野口雅之, 檜澤伸之: 転移先で絨毛癌成分が顕在化したと考えられる肺扁平上皮癌の一例. 第220回日本呼吸器学会関東地方会(東京), 7月, 2016
32. 田地広明, 會田有香, 大澤 翔, 北沢晴奈, 中嶋真之, 渡辺裕子, 塩澤利博, 中澤健介, 増子裕典, 小川良子, 際本拓未, 松野洋輔, 川口未央, 森島祐子, 坂本 透, 家城隆次, 石毛和紀, 坂下信悟, 後藤行延, 佐藤幸夫, 関根郁夫, 野口雅之, 檜澤伸之: 小細胞肺癌へ転化し, EGFR 遺伝子変異検索が鑑別に有用であった肺腺癌の1例. 第176回日本肺癌学会関東支部学術集会(東京), 7月, 2016
33. 腰椎化膿性脊椎炎に対する前後インストゥルメンテーション手術の経験 安部哲哉, 長島克弥, 三浦紘世, 藤井賢吾, 中山敬太, 熊谷洋, 野口裕史, 船山徹, 山崎正志 第27回ちば脊椎カンファレンス, 2016年7月, 千葉
34. 太刀川弘和, 宮本良平, 高橋晶, 根本清貴, 堀孝文, 新井哲明: 茨城常総市水害後の抑うつ, 外傷後ストレス症状について-健診時こころのアンケート調査から-. 第13回日本うつ病学会総会(名古屋) 8月, 2016.
35. 翠川 晴彦, 太刀川弘和, 遠藤剛, 森田展彰, 根本清貴, 新井哲明: ゲートキーパー研修の自信向上につながる要因—ゲートキーパー自己効力感尺度を用いた検討. 第13回日本うつ病学会総会(名古屋) 8月, 2016.
36. 田口高也, 太刀川弘和, 根本清貴, 鈴木雅之, 長野徹, 立花隆輝, 西村雅史, 新井哲明: うつ病患者と健常者の音響特徴量変化の再現性に関する検討. 第13回日本うつ病学会総会(名古屋) 8月, 2016.
37. 小杉祥子, 根本清貴, 山形晃彦, 太刀川弘和, 石川和宏, 矢口知絵, 葛原史子, 妹尾栄一, 土井永史: ストレス検査入院希望者の気質・性格傾向及びストレスコーピング. 第36回日本精神科診断学会(東京) 8月, 2016.
38. 脊椎術後の発生した致死合併症の検討 藤井賢吾, 安部哲哉, 船山徹, 野口裕史, 中山敬太, 三

- 浦紘世, 長島克弥, 山崎正志 第5回JASA, 2016年8月, 金沢
39. 「とりあえず・・・後方除圧」が行われた2例 三浦紘世, 熊谷洋, 藤井賢吾, 野口裕史, 船山徹, 安部哲哉, 山崎正志 第49回脊椎外科同好会, 2016年8月, 岩手
40. 相羽美幸, 太刀川弘和, Adam Lebowitz: 対人関係欲求尺度 (INQ) と自殺潜在能力尺度 (ACSS) の日本語版の作成. 日本社会心理学会第57回大会 (西宮) 9月, 2016.
41. 頰椎後方手術に際して椎孔周囲スクリューが有用であった2例 清水知明, 安部哲哉, 熊谷洋, 長島克弥, 船山徹, 山崎正志 第65回東日本整形災害外科学会, 2016年9月, 神奈川
42. 椎骨動脈骨外走行異常を合併した歯突起後方偽腫瘍および後縦靱帯腹側嚢腫の一手術例 北島祐二, 安部哲哉, 船山徹, 野口裕史, 藤井賢吾, 三浦紘世, 熊谷洋, 山崎正志 第65回東日本整形災害外科学会, 2016年9月, 神奈川
43. 術前の椎骨動脈塞栓術を併用して完全摘出し得た頰椎腱鞘巨細胞腫の一例 蒲田久典, 船山徹, 塚西敏則, 安部哲哉, 藤井賢吾, 三浦紘世, 山崎正志 第65回東日本整形災害外科学会, 2016年9月, 神奈川
44. 重度脊髄障害例に対してロボットスーツHALを用いた機能回復治療における歩行時筋活動の解析 門根秀樹, 久保田茂希, 清水如代, 安部哲哉, 羽田康司, 山崎正志 第34回日本ロボット学会学術講演会, 2016年9月, 山形
45. 田附あえか・塩谷隼平・大塚斉他: 児童養護施設における心理臨床その11——知的障害を抱えた子どもへの支援——. 日本心理臨床学会第35回秋季大会 (横浜市) 9月, 2016.
46. 太刀川弘和, 川島義高, 小田原俊成, 衛藤暢明, 河西千秋, 山田光彦: 大学生を対象とした国内外の自殺予防研究に関する系統的レビュー. 第54回全国保健管理研究集会 (大阪) 10月, 2016.
47. 石井映美, 太刀川弘和, 白鳥裕貴, 佐々木恵美, 久賀圭祐, 新井哲明: 精神科通院学生の学業転帰について—より合理的な支援のために—. 第54回全国保健管理研究集会 (大阪) 10月, 2016.
48. 岡本祐子, 諸岡治美, 箕原豪人, 坂寄俊子, 井上由美, 川崎由紀子, 黒堀沙織, 坂本 透, 金子剛, 榎本真美, 久賀圭祐, 太刀川弘和: 保健管理センター内科における留学生受診者の現状. 第54回全国保健管理研究集会 (大阪) 10月, 2016.
49. 久賀圭祐, 吉原正治, 三宅 仁, 前田健一, 川村祐一郎, 高橋裕子, 富樫 整, 林 多喜王, 保健管理業務の情報処理に関する特別委員会: 大学保健管理におけるIT化のメリットと課題. 第54回全国大学保健管理研究集会 (大阪) 10月, 2016
50. 岡本祐子, 諸岡治美, 箕原豪人, 坂寄俊子, 井上由美, 川崎由紀子, 黒堀沙織, 坂本 透, 金子剛, 榎本真美, 久賀圭祐, 太刀川弘和: 精神科通院学生の学業転帰について—より合理的な支援のために—. 第54回全国大学保健管理研究集会 (大阪), 10月, 2016
51. 骨粗鬆症性椎体骨折に対する筑波方式の保存治療の成績 柴尾洋介, 安部哲哉, 竹内陽介, 野口裕史, 船山徹, 山崎正志 第2回北関東脊椎外科研究会, 2016年10月, 鬼怒川
52. 側方椎体間固定 (LLIF) における椎体間ケージ内移植骨の工夫と今後の骨癒合評価に向けて 船山徹, 熊谷洋, 安部哲哉, 野口裕史, 三浦紘世, 藤井賢吾, 山崎正志 第2回北関東脊椎外科研究会, 2016年10月, 鬼怒川
53. 腫瘍脊椎骨全摘術後5年でロッド折損を生じた1例 漆原大介, 安部哲哉, 船山徹, 野口裕史, 熊

- 谷洋, 藤井賢吾, 三浦紘世, 山崎正志 第122回茨城県整形外科集談会, 2016年10月, 水戸
54. 重度脊髄障害例に対するロボットスーツHALを用いた機能回復治療の効果の解析 門根秀樹, 久保田茂希, 清水如代, 安部哲哉, 羽田康司, 山海嘉之, 山崎正志 第31回日本整形外科学会基礎学術集会, 2016年10月, 福岡
55. 重度歩行障害を呈する胸椎後縦靱帯骨化症に対するロボットスーツHALを用いた機能回復治療 久保田茂希, 安部哲哉, 清水如代, 門根秀樹, 藤井賢吾, 羽田康司, 菅谷久, 吉岡友和, 山海嘉之, 山崎正志 第31回日本整形外科学会基礎学術集会, 2016年10月, 福岡
56. 胸椎OPLLに伴う重度脊髄障害に対する後方除圧固定術+ロボット歩行訓練による新たな治療 藤井賢吾, 安部哲哉, 船山 徹, 野口裕史, 中山敬太, 三浦紘世, 熊谷洋, 久保田茂希, 山崎正志 第25回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 2016年10月, 長崎
57. 小皮切にこだわらないLLIF(側方腰椎椎体間固定)における周術期合併症の検討 熊谷洋, 安部哲哉, 長島克弥, 三浦紘世, 藤井賢吾, 中山敬太, 野口裕史, 船山徹, 山崎正志 第25回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 2016年10月, 長崎
58. 骨粗鬆症性椎体骨折後遷延治癒/偽関節に対する骨髓血と一軸連通孔ハイドロキシアパタイト顆粒を用いた椎体形成術の試み 船山徹, 塚西敏則, 藤井賢吾, 中山敬太, 熊谷洋, 安部哲哉, 山崎正志 第25回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 2016年10月, 長崎
59. 頸椎長範囲後方固定術におけるスクリューの緩み・折損の検討 長島克弥, 安部哲哉, 熊谷洋, 三浦紘世, 藤井賢吾, 中山敬太, 野口裕史, 船山徹, 國府田正雄, 古矢丈雄, 萬納寺誓人, 山崎正志 第25回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 2016年10月, 長崎
60. 後頭骨頸椎固定術及び頸椎後方固定術におけるC2椎弓根スクリュー刺入の可能性 野口裕史, 安部哲哉, 長島克弥, 船山徹, 三浦紘世, 藤井賢吾, 熊谷洋, 中山敬太, 國府田正雄, 古矢丈雄, 山崎正志 第25回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 2016年10月, 長崎
61. 首下がり症候群に対する三次元歩行解析—頸椎インストゥルメンテーション固定の術式選択の補助手段として— 三浦紘世, 門根秀樹, 熊谷洋, 長島克弥, 中山敬太, 藤井賢吾, 野口裕史, 船山徹, 安部哲哉, 山崎正志 第25回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 2016年10月, 長崎
62. 頸椎手術例における椎骨動脈の骨外・骨内走行異常の評価—上位頸椎および中下位頸椎疾患例の比較— 渡邊竜之介, 長島克弥, 安部哲哉, 熊谷洋, 三浦紘世, 藤井賢吾, 中山敬太, 椎名逸雄, 野口裕史, 船山徹, 山崎正志 第25回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 2016年10月, 長崎
63. 胸椎手術後の胸腔内髄液漏に対して非侵襲的陽圧吸引療法が有効であった2例 河野衛, 安部哲哉, 三浦紘世, 長島克弥, 島崎紘史郎, 藤井賢吾, 熊谷洋, 船山徹, 野口裕史, 國府田正雄, 古矢丈雄, 山崎正志 第25回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 2016年10月, 長崎
64. 頸椎後方固定術における椎孔周囲スクリューの臨床使用評価 安部哲哉, 長島克弥, 三浦紘世, 藤井賢吾, 中山敬太, 熊谷洋, 野口裕史, 船山徹, 新 正明, 山崎正志 第25回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 2016年10月, 長崎
65. 船山 徹, 熊谷 洋, 安部哲哉, 野口裕史, 三浦紘世, 藤井賢吾, 山崎正志: 側方椎体間固定術

- (LLIF)における椎体間ケージ内移植骨の工夫と今後の骨癒合評価に向けて、第2回北関東脊椎外科研究会(鬼怒川), 10月, 2016
66. 船山 徹, 塚西敏則, 藤井賢吾, 中山敬太, 熊谷 洋, 安部哲哉, 山崎正志: 骨粗鬆症性椎体骨折後 遷延治癒/偽関節に対する骨髓血と一軸連通孔ハイドロキシアパタイト顆粒を用いた椎体形成術の試み, 第25回日本脊椎インストゥルメンテーション学会(長崎), 10月, 2016
67. 宮本良平, 太刀川弘和, 高橋晶, 根本清貴, 新井哲明, 堀孝文: 茨城常総市水害後の抑うつ, 外傷後ストレス症状について, 第65回茨城精神医学集団会(水戸) 11月, 2016.
68. 袖山紀子, 高橋晶, 高橋祥友, 太刀川弘和, 相羽美幸, 新井哲明: 茨城県における東日本大震災後の精神科受診患者の動向(第2報), 第65回茨城精神医学集団会(水戸) 11月, 2016
69. 佐藤進哉, 北沢晴奈, 田地広明, 會田有香, 大澤 翔, 中嶋真之, 塩澤利博, 中澤健介, 増子裕典, 小川良子, 際本拓未, 松野洋輔, 川口未央, 森島祐子, 坂本 透, 家城隆次, 坂下信悟, 関根郁夫, 野口雅之, 檜澤伸之: 原発巣と転移巣で異なる組織形態, 免疫染色像を呈した肺腺癌中咽頭転移の1例, 第222回日本呼吸器学会関東地方会(東京), 11月, 2016
70. 池口文香, 中嶋真之, 會田有香, 森島祐子, 塩澤利博, 中澤健介, 増子裕典, 小川良子, 坂本 透, 檜澤伸之: 抗IL-6受容体抗体による関節リウマチ治療中に発症した *Mycobacterium avium complex* 胸膜炎の1例, 第159回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会(東京), 11月, 2016
71. 金子剛: 検査目的による有所見率の後方視的検討 カプセル内視鏡読影支援ネットワークにおける651例の結果から JDDW2016(神戸) 11月, 2016年
72. 胸椎後縦靱帯骨化症に伴う重度脊髄障害に対する後方除圧固定術+ ロボット治療 藤井賢吾, 安部哲哉, 久保田茂希, 船山徹, 山崎正志 第51回日本脊髄障害医学会, 2016年11月, 千葉
73. 腰椎変性側弯症に対する3次元動作解析と筋活動計測を同期させた歩行解析—術前後での解析— 三浦紘世, 門根秀樹, 熊谷洋, 長島克弥, 中山敬太, 藤井賢吾, 野口裕史, 船山徹, 安部哲哉, 山崎正志 第18回茨城県脊髄・脊椎研究会, 2016年11月, つくば
74. ショベリング除雪反復動作におけるロボットスーツHALの腰部負荷軽減効果 三浦紘世, 門根秀樹, 安部哲哉, 遠藤寛興, 村上秀樹, 山崎正志 第51回日本脊髄障害医学会, 2016年11月, 千葉
75. 頸椎術後C5麻痺に対する上肢単関節HALを用いた機能回復治療 久保田茂希, 安部哲哉, 藤井賢吾, 清水如代, 羽田康司, 山崎正志 第51回日本脊髄障害医学会, 2016年11月, 千葉
76. 重度脊髄障害例に対するロボットスーツHALを用いた機能回復治療の歩行時筋活動解析 門根秀樹, 久保田茂希, 清水如代, 安部哲哉, 羽田康司, 山崎正志 第51回日本脊髄障害医学会, 2016年11月, 千葉
77. 慢性期頸髄損傷四肢麻痺患者に対する上肢単関節HALによる機能回復治療 清水如代, 門根秀樹, 久保田茂希, 安部哲哉, 羽田康司, 山崎正志 第51回日本脊髄障害医学会, 2016年11月, 千葉
78. 胸椎OPLLによる重度脊髄障害に対する後方除圧固定術に続く装着型ロボットHALを用いた歩行訓練の効果【脊椎靱帯骨化症に関する調査研究】【後縦靱帯骨化症の病態解明・治療法開発に関する研究】 安部哲哉, 藤井賢吾, 三浦紘世, 長島克弥, 熊谷洋, 野口裕史, 船山徹, 久保田茂希,

門根秀樹, 山崎正志平成 28 年度第 2 回合同班会議, 2016 年 11 月

79. 船山 徹, 塚西敏則, 熊谷 洋, 野口裕史, 伊澤成郎, 山崎正志: 配向連通孔構造の β -リン酸3カルシウム人工骨を用いた高齢者の新鮮椎体破裂骨折手術における経時的画像変化. 第1回アフィノス臨床使用評価会議(つくば), 11月, 2016
80. 水谷洋介, 田村昌士, 山形晃彦, 堀孝文, 土井永史, 白鳥裕貴: 自殺企図を繰り返した軽度精神遅滞の一例—行動療法的アプローチについて—. 第65回茨城精神医学集談会, 茨城, 11月, 2016
81. 太刀川弘和, 石井映美, 白鳥裕貴, 新井哲明: 発達障害学生の精神科診療における特徴—自験例の診療録から他の精神疾患と比較して—. 第38回 全国大学メンタルヘルス学会(東京) 12月, 2016
82. 川崎病に合併した陳旧性環軸椎回旋位固定の1例 池田麗美, 船山徹, 安部哲哉, 野口裕史, 熊谷洋, 藤井賢吾, 三浦紘世, 長島克弥, 山崎正志 第5回レジデントディ, 2016年12月, つくば
83. 後頭骨頸椎後方固定術後に覚醒遅延をきたした1例 村上浩平, 安部哲哉, 野口裕史, 三浦紘世, 熊谷洋, 藤井賢吾, 船山徹, 山崎正志 第5回レジデントディ, 2016年12月, つくば
84. 船山 徹, 塚西敏則, 熊谷 洋, 野口裕史, 伊澤成郎, 山崎正志: 配向連通孔構造の β -リン酸3カルシウム人工骨を用いた高齢者の新鮮椎体破裂骨折手術における経時的画像変化. 第36回整形外科バイオマテリアル研究会(大阪), 12月, 2016
85. 酒井千緒, 田地広明, 春日真理子, 會田有香, 中嶋真之, 吉田和史, 塩澤利博, 中澤健介, 増子裕典, 小川良子, 際本拓未, 松野洋輔, 川口未央, 森島祐子, 坂本 透, 家城隆次, 坂下信悟, 野口雅之, 檜澤伸之: オシメルチニブを投与し好酸球性肺炎パターンの薬剤性肺障害をきたした1例. 第171回日本結核病学会関東支部会 第223回日本呼吸器学会関東地方会合同学会(東京), 2月, 2017
86. 岡村純子, 春日真理子, 際本拓未, 田地広明, 會田有香, 中嶋真之, 吉田和史, 塩澤利博, 中澤健介, 増子裕典, 小川良子, 松野洋輔, 川口未央, 森島祐子, 坂本 透, 石井一弘, 坂下麻衣, 坂下信悟, 野口雅之, 檜澤伸之: 難治I性器質化肺炎加療中に気管支鏡検査で肺MALTリンパ腫と診断しえた1例. 第160回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会(東京), 3月, 2017
87. 田中崇恵: 空っぽから実感が生まれてきた男子大学生との面接—旅を通して世界と自分の身体につながること—. 日本箱庭療法学会第30回大会(大阪), 2016
88. 田中崇恵, 江上奈美子, 古川真由美, 慶野遥香, 川崎隆, 高野明: 学生相談におけるOQ-45の利用(1)—デモグラフィック属性との関連からみた学生相談機関利用学生の特徴—. 日本学生相談学会第34回大会(東京), 2016
89. 慶野遥香, 古川真由美, 江上奈美子, 川崎隆, 田中崇恵, 高野明: 学生相談におけるOQ-45の利用(2)—初回の相談内容とカウンセラーのチェック項目に着目して—. 日本学生相談学会第34回大会(東京), 2016
90. 川崎隆, 江上奈美子, 古川真由美, 田中崇恵, 慶野遥香, 高野明: 学生及び教職員が抱く学生相談機関の相談効果. 日本学生相談学会第34回大会(東京), 2016

<講演会>

1. Tachikawa H: Scapegoating effect to suicide in Japan. In Plenary Session 7, 'Media and suicide: is there only Werther's effect?' 7th Asia Pacific Regional Conference of the International Association for Suicide Prevention, Tokyo, May, 2016
2. Tachikawa H, : Primary and Secondary Prevention of Suicide in College and University Students. In Symposium 10, 'Protecting youth from suicide!' 7th Asia Pacific Regional Conference of the International Association for Suicide Prevention, Tokyo, May, 2016
3. 安部哲哉：腰痛診療。茨城県医師会 社会保険指導者講習会, 2016年1月, 水戸
4. 太刀川弘和：大学生のメンタルヘルス-気になる学生への接し方-. 茨城大学保健管理センター職員研修会（水戸）5月, 2016.
5. 船山 徹：骨粗鬆症性椎体骨折の治療戦略。茨城整形外科Update seminar（つくば）5月, 2016
6. 太刀川弘和, 袖山紀子, 吉田隆夫, 岩間幸子：茨城DPAT活動報告 熊本市益城町における活動（第3班）。熊本地震災害支援 茨城DPAT活動報告会（水戸）6月, 2016.
7. 太刀川弘和：被災者に対するコミュニケーションのコツ。常総市社会福祉協議会研修会（常総）7月, 2016.
8. 太刀川弘和, 高橋晶, 根本清貴, 新井哲明, 河合伸念, 堀孝文：台風18号災害における筑波大学の常総市こころのケア活動報告。埼玉県精神保健福祉協会「台風18号災害における支援活動報告会」。 （越谷）7月, 2016.
9. 安部哲哉：筑波大学方式の骨粗鬆症性椎体骨折の診断と治療。いばらき県南医療連携フォーラム。2016年7月, つくば
10. 太刀川弘和：大学生のメンタルヘルス問題・自殺問題の実状と課題。日本うつ病学会自殺対策委員会企画シンポジウム「生徒・学生の自殺問題」, 第13回日本うつ病学会総会（名古屋）8月, 2016.
11. 川島義高, 太刀川弘和, 小田原俊成, 衛藤暢明, 河西千秋, 山田光彦：大学生を対象とした自殺予防に関する国内外の取り組みの現況-系統的レビュー。日本うつ病学会自殺対策委員会企画シンポジウム「生徒・学生の自殺問題」, 第13回日本うつ病学会総会（名古屋）8月, 2016.
12. 石井映美：LAI（Long Acting Injection）の有用性—使用例の経過から—。つくば学術講演会（つくば）8月, 2016
13. 太刀川弘和：情報化新時代における学生のメンタルヘルス。筑波大学学生支援教職員研修会「学生生活における情報化新時代の課題」（つくば）9月, 2016.
14. 石井映美：LAI使用時の問題点と有用性。つくば学術講演会（つくば）10月, 2016
15. 太刀川弘和：大規模災害時の心のケア。松代4丁目千上自治会 平成28年度自治会防災イベント（つくば）10月, 2016.
16. 太刀川弘和：常総市水害における災害精神支援活動の成果と課題, 第65回茨城精神医学集団会（水戸）11月, 2016
17. 安部哲哉：後頭骨頸椎後方固定術—術中のO—C2角の調整をはじめとする留意点について—。第11回千葉・筑波脊椎手術手技講習会。2016年11月, 幕張

18. 安部哲哉：腰部装着型HALを用いた腰痛予防対策．つくば運動器セミナー，2016年11月，つくば
19. 船山 徹：骨粗鬆症性椎体骨折に対する手術治療～2週間臥床の保存治療 筑波プロトコールも含めて～．第11回千葉・筑波脊椎手術手技講習会（幕張）11月，2016
20. 太刀川弘和：茨城県における災害精神支援活動の成果と課題－関東・東北豪雨，熊本地震での活動を通して－．平成28年度関東甲信越ブロック精神保健福祉センター連絡協議会（水戸）12月，2016.
21. 太刀川弘和：職域・病院における自殺予防．豊後荘病院講演会 Veritas Club（石岡）12月，2016.
22. 太刀川弘和，白鳥裕貴，石井映美：医学生メンタルケア．平成28年度 筑波大学 医学類教員更新研修会（つくば）1月，2017
23. 太刀川弘和：大切な人をなくさないために つながる支援に向けて．江戸川区いのち見守り隊養成講座“中級編講座”（東京）2月，2017.
24. 白鳥裕貴：心の危機から命を守る ～あなたがゲートキーパーになる時～．笠間市自殺予防研修会（笠間市），2月，2017
25. 太刀川弘和，白鳥裕貴，石井映美：不安定な学生の成績分析について．平成28年度 第13回筑波大学FD研修会 学生支援FD「学生こころの状態スクリーニング結果と各種支援体制・対応について」（つくば）3月，2017.
26. 白鳥裕貴，太刀川弘和，石井映美：H28年度学生健診こころの状態スクリーニング結果．「学生こころの状態スクリーニング結果と各種支援体制・対応について」平成28年度 第13回筑波大学FD研修会 学生支援FD（つくば）3月，2017
27. 太刀川弘和，白鳥裕貴，石井映美：不安定な学生の成績分析について．「学生こころの状態スクリーニング結果と各種支援体制・対応について」平成28年度 第13回筑波大学FD研修会 学生支援FD（つくば）3月，2017
28. 石井映美，白鳥裕貴，太刀川弘和：精神保健相談（精神科診療） 対応体制について．「学生こころの状態スクリーニング結果と各種支援体制・対応について」平成28年度 第13回筑波大学FD研修会 学生支援FD（つくば）3月，2017
29. 太刀川弘和：【基礎知識編】うつ病．茨城県医療従事者うつ病・自殺予防対応力向上研修会（水戸）3月，2017.
30. 太刀川弘和：うつ病の診断/治療のガイドライン～プライマリケア医への期待～県南地域 こころとからだ学術講演会（土浦）3月，2017.
31. 石井映美：発達障害．水戸少年鑑別所職員研修会（水戸）3月，2017

<受賞>

1. 太刀川弘和，石井映美：第1回岡庭賞（優秀発表者）「発達障害学生精神科診療における特徴—自験例の診療録から他の精神疾患と比較して」．第38回全国大学メンタルヘルス学会，東京，12月，2016.

平成30年3月

編集・発行 筑波大学保健管理センター

〒305-8577

茨城県つくば市天王台1-1-1

電話 (029) 853-2401・2403

FAX (029) 853-2402
